

スタッフ工法技術資料

大形タイル__住宅編

2025.5.27 Ver2.1

株式会社アイコトリョーワ

Tel: 0572-27-6161
〒507-0068 岐阜県多治見市大藪町1989番地の5



はじめに

「ストップ工法大形タイル 住宅編」は、大形タイルを有機系接着剤で木造住宅の窯業系サイディング下地に張り付ける工法です。2015年2月に国土交通省より技術的助言（国住指第4291号）が発出され、ますますデベロッパ様やお施主様のタイル張りニーズが拡大しています。

近年、タイルはデジタル加色による技術革新が進み、天然石と変わらない、さらには天然石を超える幅広いバリエーションが実現可能となりました。一方で、天然石は産地の供給が不安定となっています。その影響から、高意匠の大形タイルに対するニーズが非常に高まっています。

しかしながら、タイル業界では大形タイルの壁面施工がスタンダードとなっていないため、施工品質に対する不安から採用を見送るケースも多く見られます。正しい施工が行われ、高い品質の外壁が増えることにより、私たちの街並みが「より一層豊かに彩られる」ものと期待しています。

本書は、木造住宅向けのタイル張りにおいて品質確保ができること、不具合の未然防止を目的としています。適用下地と適用タイルの組み合わせは多岐にわたり、それに伴う手順も異なります。そのため、300角以下のストップ工法とは区分し、大形タイルに特化した内容としています。工事着手前に本書をご一読いただき、高品質で安全な外壁を提供できるようにお願いします。

なお、本書は、木造住宅の構造補強に筋交いを用いる場合・耐力面材を用いる場合の両方に対応していますが、住宅メーカー様の仕様を全て網羅するものではありませんので、ご採用の際にはご関係者様と十分なお打ち合わせを重ねていただきますようお願いいたします。

危険や損害の表示区分：

表示内容に従わなかった場合に生じる危害や損害を次の表示で区分しています。



警告：取扱いを誤った場合に、死亡または重傷、障害を負う可能性がある場合の表示です。



指示：守るべき行動の表示です。誤った行動の場合は、物的損傷や重大な不具合の可能性がある場合の表示です。



禁止：行ってはいけない禁止内容の表示です。

INDEX

1. 設計・施工条件	1
1.1. 概要図	2
1.2. 適用条件	3
1.3. 適用部材	5
1.4. 外壁通気構法のポイント	6
1.5. 寒冷地における施工のポイント	7
1.6. 安全上のポイント	8
1.7. 禁止事項	9
2. 構成部材	13
2.1. 構成部材一覧	14
2.2. 構成部材形状	15
2.3. 工事用工具	17
3. タイル下地工事施工手順	19
3.1. 工程図	20
3.2. 事前チェック	21
3.3. 土台水切りの取付け	23
3.4. 開口部廻りの防水テープ張り	23
3.5. 透湿防水シートの施工	24
3.6. 胴縁の取付け	25
3.7. 付属部材の取付け	26
3.8. スタップ・ボードの切断・留付け	27
3.9. シーリング工事	30
3.10. 清掃・残材処理／補修・点検	32
3.11. 補修・点検	32
4. タイル張り工事施工手順	33
4.1. 工程図	34
4.2. タイル下地サイディングのチェック	35
4.3. 板間処理（ジョイントテープ貼り）	36
4.4. 不陸調整	38
4.5. タイルの割付け	38
4.6. タイルの墨出し	38
4.7. タイル張り	39
4.8. 目地詰め・洗い	42
4.9. 化粧シーリングおよび付属設備の取付け	43
4.10. 検査	44
4.11. 補修方法	45
5. 納まり図	47
5.1. 一般部（水平断面）	48
5.2. 一般部（垂直断面）	48
5.3. 基礎土台部	49
5.4. 軒天部	49
5.5. 出隅部	50
5.6. 入隅部	50
5.7. 開口部（水平断面）	51
5.8. 開口部（垂直断面）	51
6. チェックシート	53
6.1. タイル下地工事自主チェックシート	54
6.2. タイル工事自主チェックシート	55
7. 注意事項	57
7.1. 安全衛生心得	58
7.2. 部材保管・納入時の注意	58
7.3. 維持管理のポイント	59
8. 付録	61
8.1. 適用タイルリスト（2025.4）	62

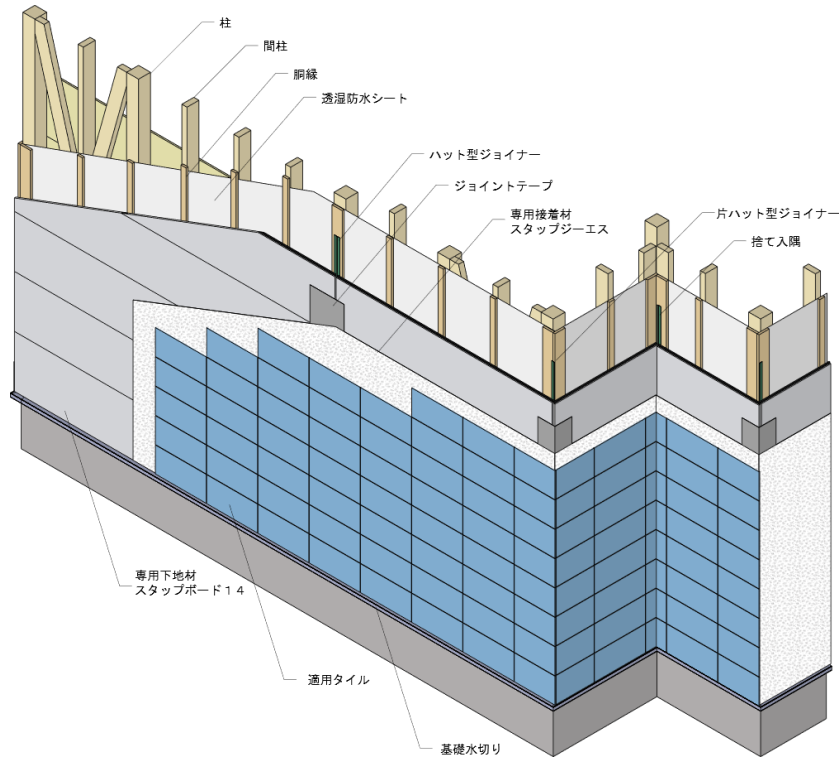
1. 設計・施工条件

1 設計・施工条件

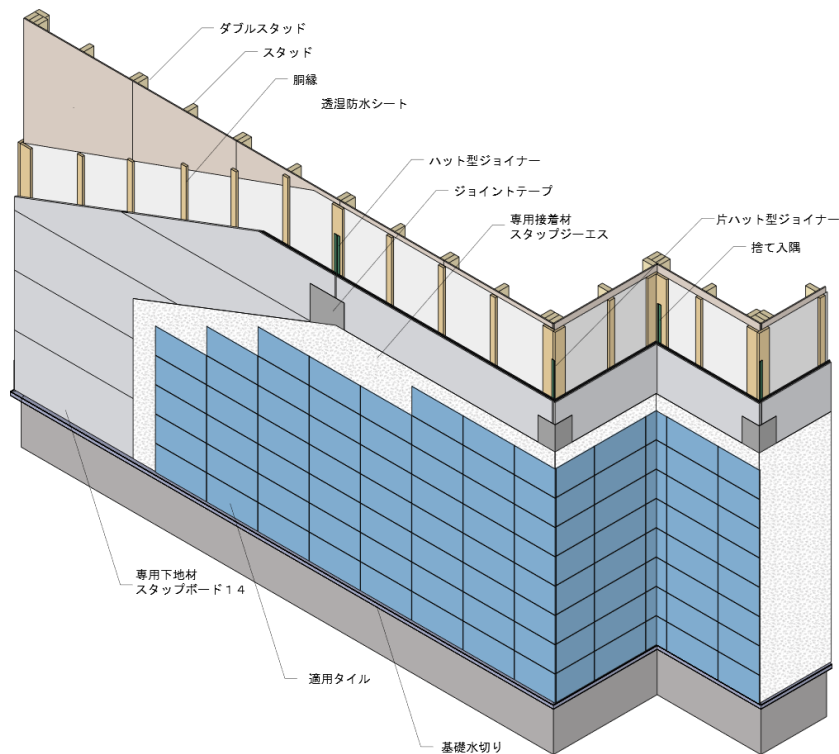
1.1. 概要図

システムの構成は、窯業系サイディングやモルタルなどの適用外壁下地、接着剤、タイルからなります。また、窯業系サイディングの縦ジョイント部にまたがってタイルを張る場合には、タイルの割れ防止のために、原則ジョイントテープを用います。

1.1.1. 木造軸組



1.1.2. 木造枠組



1.2. 適用条件

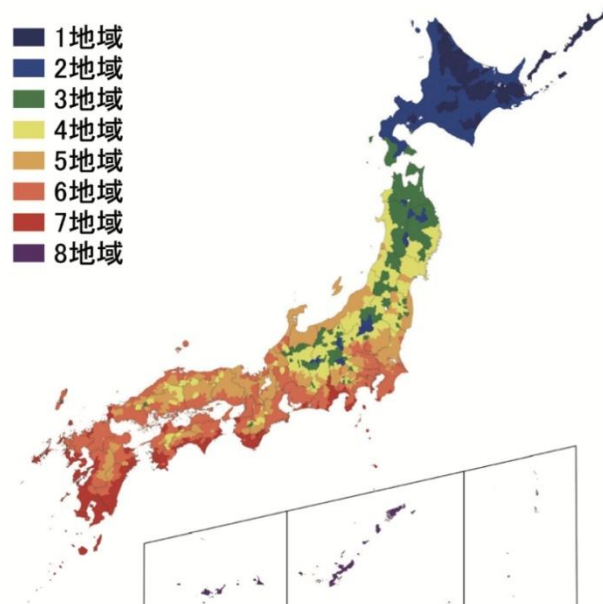
1.2.1. 適用範囲

- ・ 木造建築で3階建て以下、かつ高さ16m以下の建物に使用できます。詳細はP.4 建築用途と耐火基準を参照してください。
- ・ 一般地域、寒冷地域ともに、タイル下地は胴縁仕様による通気構法を採用してください。

項目		専用下地の適用範囲
地域	一般地域	外壁通気構法（胴縁仕様）
	寒冷地域	
適応建物	構造	木造軸組工法（筋交い壁・耐力面材壁） / 木造枠組工法
	高さ	地上3階建て以下かつ高さ16m以下
下地組	種類	柱・間柱（筋交い壁・面材壁）
	間隔	500 mm以下
その他性能		乾式外壁工事 (JASS27-2011.9.3.1 防耐火、耐震、耐風圧、防水)
接着剤		スタップ・ジーエス

1.2.2. 適用地域

スタップ工法は、下記に示す「建築物省エネ法」地域に適用します。詳細地域は、国土交通省HPの最新地域区分表をご確認ください。



「建築物省エネ法」に基づく適用地域を区別していますが、適用地域を制限するものではありません。

1 設計・施工条件

1.2.3. 適用構造

1.2.3.1. 建築用途と防耐火基準

以下に本製品の主に使用可能な用途・構造を示します（主用途以外は塗潰し表示）。

用途	地域	階数	延べ面積S(m ²)									
			S≤100	100<S≤500	500<S≤1000	1000<S≤1500	1500<S≤3000	3000<S				
共同住宅	防地域	3	外壁：耐火構造 (法61条)									
		1,2						外壁：耐火構造 (法61条)				
	準防地域	4	特定建築物等以外の建築物(法27条1項の1) 外壁：1時間耐火構造 外壁：耐火構造 (法61条1項)									
		3										
		1,2						外壁：耐火構造 延焼のおそれのある部分 (法62条2項)	外壁：耐火構造 45分耐火構造 (法62条1項)			
	22条地域	4	特定建築物等以外の建築物(法27条1項の1) 外壁：1時間耐火構造 特定建築物等以外の建築物(法27条1項の1)(令110～令110の3) 中2号示255第1の1項の2) 外壁：1時間耐火構造									
		3										
		1,2						外壁：準耐火性能 延焼のおそれのある部分の構造 (法23条)	外壁：耐火構造 防火構造 2階部分の床面積200㎡S(法24条)	2階床面積300㎡Sの場合、特定建築物等以外の建築物(法27条2項の2) 外壁：45分耐火構造		3000㎡毎区画 (法21条)
	戸建住宅 一般の建築物	防地域	3	外壁：耐火構造 (法61条)								
1,2			外壁：耐火構造 45分耐火構造 (法61条)									
準防地域		4	外壁：耐火構造 (法61条1項)									
		3						外壁：耐火構造 防火構造 準防火建3階仕様 (法62条1項 令136条の2)	外壁：耐火構造 45分耐火構造 (法62条1項)			
		1,2						外壁：耐火構造 防火構造 延焼のおそれのある部分 (法62条2項)				
22条地域		1,2	外壁：準耐火性能 延焼のおそれのある部分の構造 (法23条)		外壁：耐火構造 防火構造 延焼のおそれのある部分 (法25条)		3000㎡毎区画 (法21条)					

1.2.4. 防耐火性能

専用下地材は、以下の防耐火性能認定を受けています。

- ・ スタップ・ボード14

項目		認定番号
材料認定	不燃材料	QM-1058
防火構造	木造下地	PC030BE-9201
45分準耐火構造	外壁(耐力)	QF045BE-9226

1.3. 適用部材

1.3.1. 適用タイル

以下の区分を満たすタイルが使用できます。製品名詳細は、巻末付録P.62を参照してください。
 ※600 x 300 mmを超えるタイルは、本マニュアルの適用外となります。

No.	タイルの寸法	面積	単位重量	厚さの目安	タイル重量の目安	備考
1.	300 x 300 mm	900cm ² 未満	3.5g/cm ² 未満	13 mm以下	2 kg/枚 以下	Q-CAT 型式認定の対象製品あり
2.	600 x 140 mm	900cm ² 未満	3.5g/cm ² 未満	13 mm以下	2 kg/枚 以下	Q-CAT 個別認定の対象製品あり
3.	455 x 227 mm	1035 cm ² 未満	3.5g/cm ² 未満	10 mm以下	2 kg/枚 以下	Q-CAT 対象外
4.	600 x 300 mm	1,800 cm ² 未満	3.5g/cm ² 未満	10 mm以下	4 kg/枚 以下	Q-CAT 対象外

1.3.2. 推奨下地

本マニュアルに沿って施工してください。

No.	名称	仕様	メーカー	寸法	厚さ	寒冷地	適用構造
1.	スタップ・ボード14 QM-1058	パルプ混入フライアッシュセメント板	(株)アイコットリョーフ	455 x 3030	14 mm	○	木造
2.	タイルベースW QM-0639	木質繊維混入セメント・けい酸カルシウム板	ニチハ(株)	455 x 3030	14 mm	○	木造

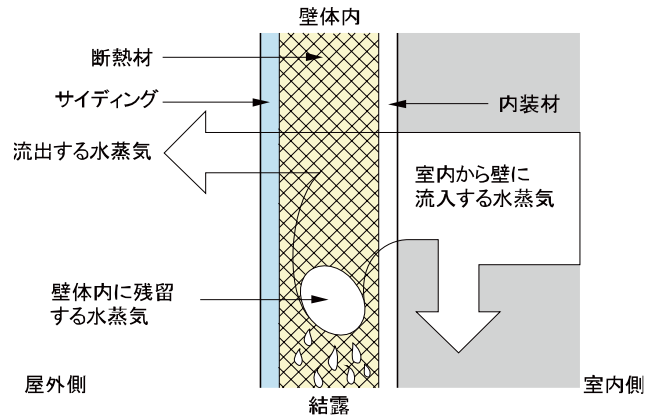
※上記以外の下地は使用できません。

1 設計・施工条件

1.4. 外壁通気構法のポイント

1.4.1. 外壁通気構法の概要

壁体内部が結露すると、柱、間柱や土台といった構造体の腐朽による住宅の耐久性劣化や、断熱材を濡らして断熱性能の低下をもたらすことになります。外壁通気構法は、このような弊害を起こす原因となる構造体内部の結露防止を目的として開発されました。建物の寿命を延ばすためにも外壁通気構法で施工を行ってください。

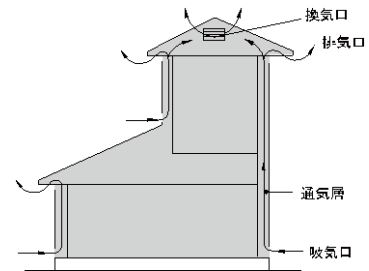


1.4.2. 外壁通気構法のしくみ

水蒸気は雨水に比べて極めて小さい粒子であるため室内側に防湿層を設けても、必ず壁体内に浸入してきます。その浸入した水蒸気を屋外に追い出すためには、屋外側に水蒸気の良く通る透湿防水シートを設け、室内側から発生する水蒸気が通気層を通して外部に排出されやすくすることが、内部結露防止の基本となります。外壁通気構法は、外壁材の室内側に、上下に解放部のある空間を設け、水蒸気が外気側に拡散して逃げていくための道をつくるものです。

1.4.3. 通気層の取り方

家の土台または下屋と壁との取り合い部に吸気口を設け、壁体内に通気層を取り、軒天から排気します。また、小屋裏からも換気を充分に取ってください。



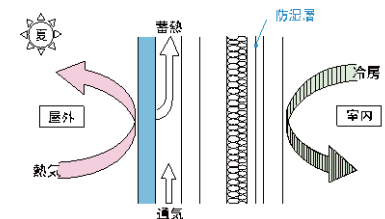
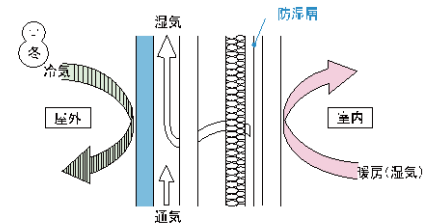
1.4.4. 外壁通気構法の効果

壁体内の結露防止に効果があるのはもちろんのこと、万一外装材の裏側に雨水が入っても、通気層がすみやかに雨を落とし、屋外に放出させ、壁体内に雨漏れするのを防ぎます。

また季節、気候に応じ、下記のような効果があることが分かっています。

〈冬〉 外からの冷気を防ぎ、さらに室内の暖房などの暖かい空気を逃がさずに湿気だけを外部に拡散放出。室内及び壁体内の結露を防ぎ、快適な室内環境を保ちます。

〈夏〉 日射熱が外壁材や壁体内に蓄熱されないように、通気層から熱気を放出。断熱性能が高まるため、室内温度の上昇を防ぎ、冷房効率がアップします。

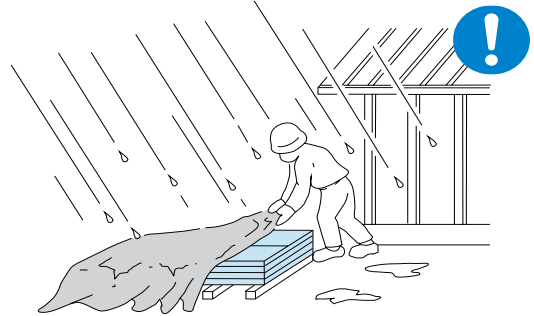


1.5. 寒冷地における施工のポイント

寒冷地またはその他の山間部など、結露・凍害が起こりやすい地域では、以下のポイントも踏まえ、標準施工を行ってください。

1.5.1. タイル下地サイディング工事

タイル下地サイディングの保管時および施工時期に、融雪水、雪、雨などによって水濡れしないようにしてください。
屋外に保管する場合は、シートなどで養生をしてください。
タイル下地サイディングが水濡れした状態でタイル施工を行うと、接着不良や壁面の反りに影響します。



1.5.2. タイル張り工事

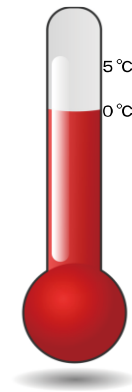
適用タイルは耐凍害性能機能を有していますので、カタログで確認することができます。
カタログに耐凍害マークが無いタイルは使用しないでください。

屋外壁
屋外床
屋内壁
窓枠内 (断熱付)
窓枠外 (断熱付)
浴室床
浴室壁
玄関床
玄関壁
パロケイル
おむこ断熱材



1.5.3. ポイント

- ・ 屋間でも気温が5℃以下となる低温環境の場合は、施工は行わないでください。
- ・ 材料が乾燥した状態で工事を行ってください。



1 設計・施工条件

1.6. 安全上のポイント

大形タイル張りは、万一剥落した場合には大きな事故につながるため、専用部材の使用はもとよりシステム構成の十分なご理解のもと採用をしてください。

1.6.1. 専用有機系弾性接着剤

大形タイルの張り付けに適した性能を発現します。必ずご使用ください。

製品名：スタップ・ジーエス

区分：JIS A 5557 JIS A 5548 タイプ I

主成分：変成シリコーン樹脂

対応下地：コンクリート・モルタル（含水率8%以下）

張付け可能時間：夏季30分 冬季60分

内容量：2kg/本

標準使用量：5mmクシ目 2.5kg/m² (1.3本/m²)

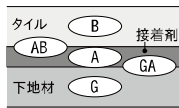
特徴：Q-CAT認定接着剤



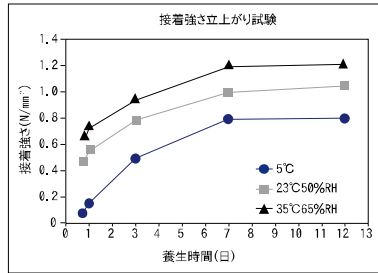
接着強さ立上り試験

養生時間(日)	接着強さ(N/mm ²)	スタップ・ジーエス					
		破壊の状況(%)					
		G	GA	A	AB	B	未硬化
5℃	0.75	0.08		40			60
	1	0.16		60			40
	3	0.50		100			
	7	0.79		100			
	12	0.80		100			
	28	0.96		100			
23℃ 50%RH	0.75	0.48		100			
	1	0.56		100			
	3	0.79		100			
	7	1.00		100			
	12	1.05		100			
	28	1.05		100			
35℃ 65%RH	0.75	0.67		100			
	1	0.74		100			
	3	0.95		100			
	7	1.20		100			
	12	1.21		100			

被着体：磁器質タイル(45×45mm)×モルタル(70×70mm)



記号	破壊の位置
B	タイル
AB	接着剤とタイル界面
A	接着剤
GA	下地材と接着剤界面
G	下地材



JIS A 5548タイプ I 試験結果

・JIS A 5548タイプ I接着性(磁器質タイル×モルタル)

項目	スタップ・ジーエス		判定基準
	接着強さ(N/cm ²)	接着強さ(N/cm ²)	
標準	149.9		58.8以上
温水	115.1		29.4以上
熱劣化	218.1		29.4以上
低温硬化	159.7		29.4以上
アルカリ水中	137.6		29.4以上

JIS A 5557 試験結果

・JIS A 5557接着性(磁器質タイル×モルタル)

項目	スタップ・ジーエス				判定基準
	接着強さ(N/mm ²)	凝集破壊率(%)	接着強さ(N/mm ²)	凝集破壊率(%)	
標準	1.05	190	0.68以上	75以上	
低温硬化	0.96	190	0.48以上	50以上	
アルカリ温水浸せき	0.66	190	0.48以上	50以上	
凍結融解	1.00	190	0.48以上	50以上	
熱劣化	1.54	190	0.48以上	50以上	

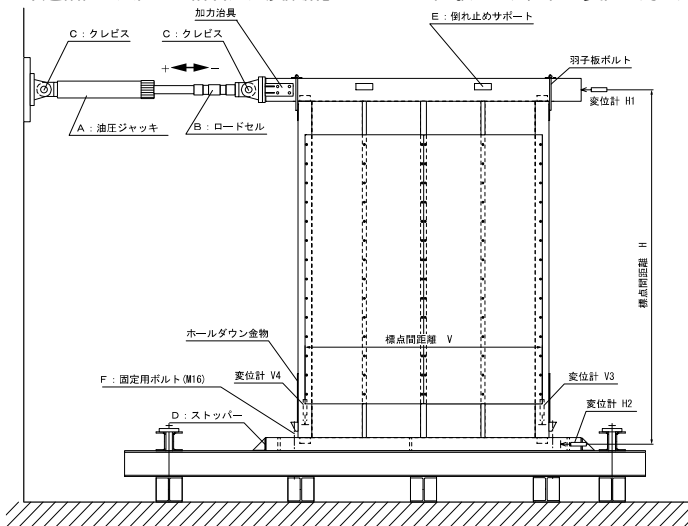
・JIS A 5557被覆物性

項目	スタップ・ジーエス		判定基準	
	引張強さ(N/mm ²)	破断時の伸び(%)	引張強さ(N/mm ²)	破断時の伸び(%)
標準	0.76	70	0.68以上	35以上
温度依存 -20℃	0.26	60	0.68以上	35以上
温度依存 50℃	0.29	70	0.68以上	35以上
アルカリ温水浸せき	0.92	60	0.48以上	25以上
熱劣化	0.78	60	0.48以上	25以上

1.6.2. システム構成の性能

本書の専用部材・手順に従って施工をすることにより、安全で高品質な外壁システムとなります。

「木造軸組工法住宅の許容応力度設計」に基づいた試験など、建物の変位に対し追従する耐震性を有するシステムとしています。



柱脚固定式面内剪断試験



1/150rad 表面状態



1/150rad 裏面変位

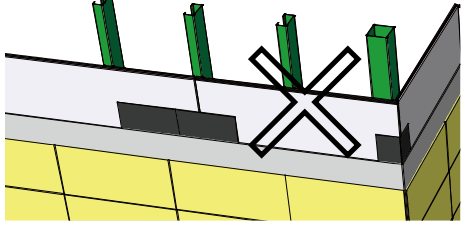
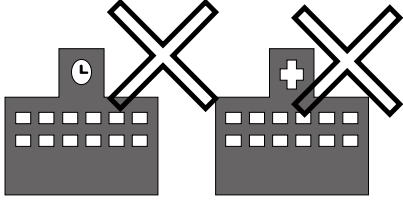
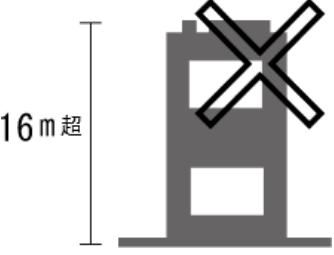
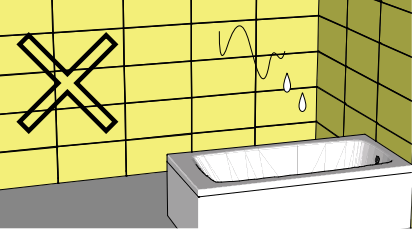
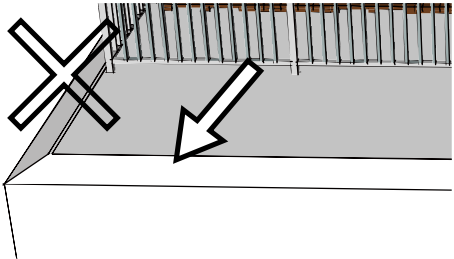
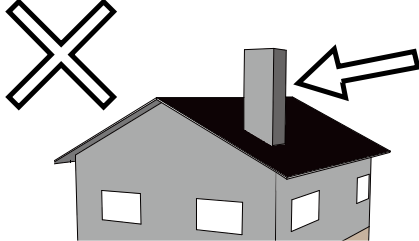
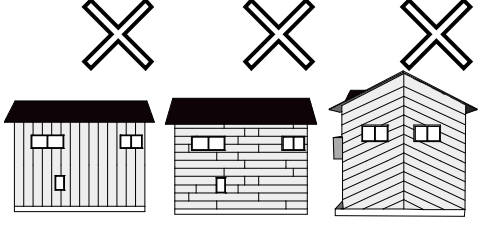
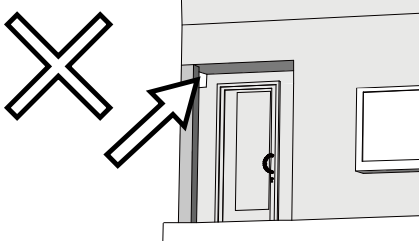
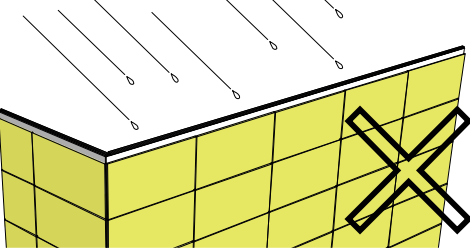
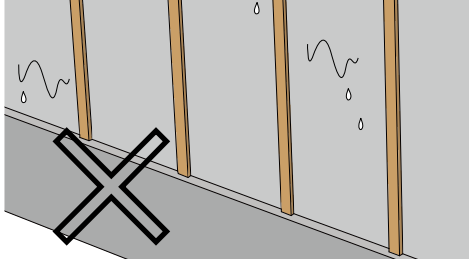
1/120rad の変位時において、本システムのタイル脱落・損傷無し。

- 最大耐力Pmax[kN] 15,813
- 最大荷重時変形角αPmax[10-3rad] 19,487
- 終局耐力Pu[kN] 13,592
- 短期基準せん断耐力 6,50
- 実験倍率 1.82

本試験は、国土交通大臣認定による壁倍率の算定を目的とするものではありません。

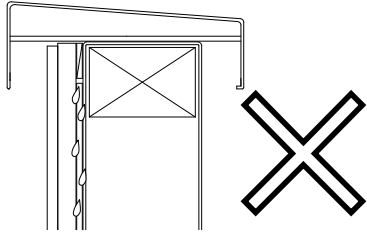
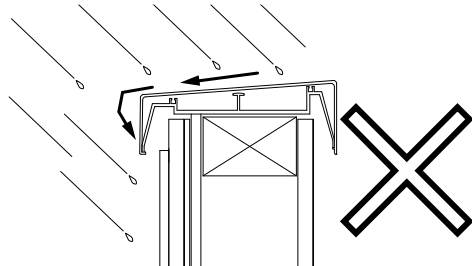
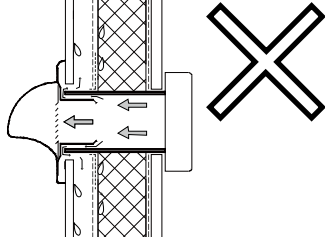
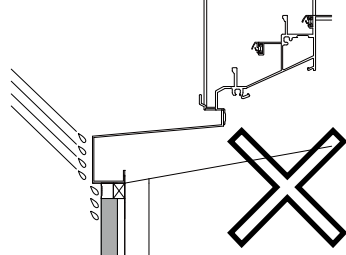
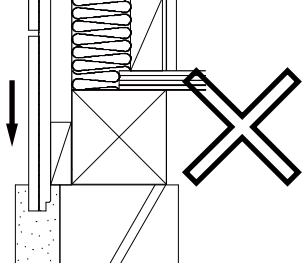
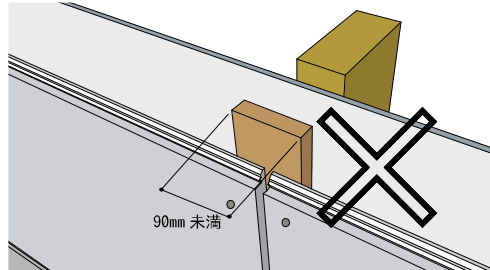
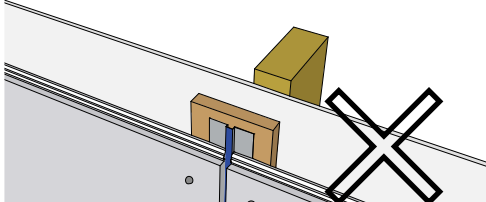
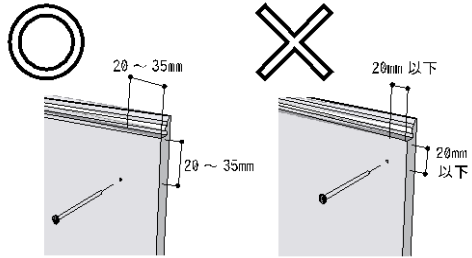
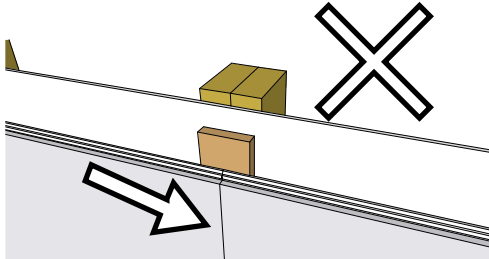
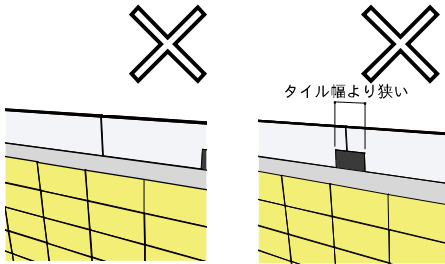
1.7. 禁止事項



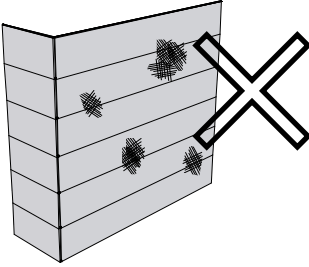
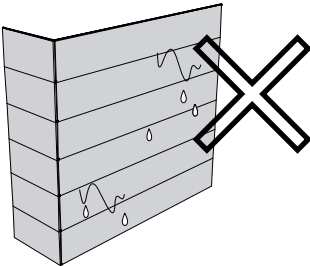
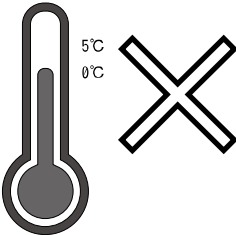
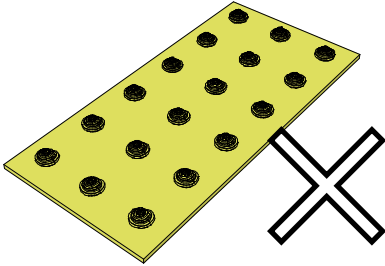
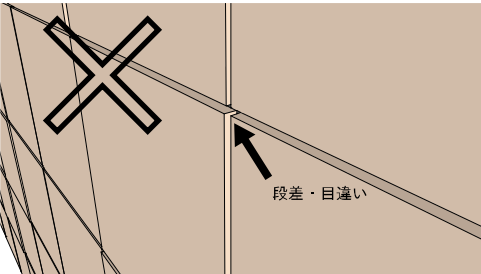
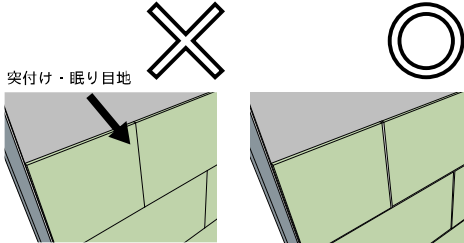
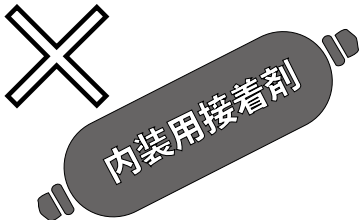
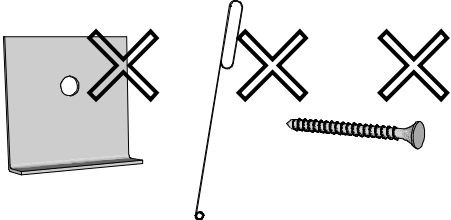
<p>■ 鉄骨造への施工 下地サイディングの損傷や、タイル割れの原因となります。</p> 	<p>■ 耐火建築物への施工 耐火構造が要求される建物への施工はできません。</p> 
<p>■ 高さ16mを超える建築物への施工 耐火建築物への施工 高さ16mを超える部分へは使用できません。</p> 	<p>■ 常時水のかかる場所への施工 異常な水分・熱などの影響により、吸水乾燥の過酷な環境に曝されるため、反り、凍害、強度低下、割れの原因となります。</p> 
<p>■ 傾斜のあるパラペットへの施工 鉛直壁に比べ、屋根に近い過酷な環境に曝されるため、接着剤の劣化、凍害、雨漏りの原因となるので使用できません。</p> 	<p>■ 煙突への施工 熱で下地サイディングが劣化する上、煙突内部で発生した水分が外部へ染み出すため、裏面からの吸水により、反り、凍害などの原因になります。</p> 
<p>■ 下地サイディングの乱張り斜め張り施工 シーリングの施工不良や雨仕舞が悪くなり、雨漏りの原因となります。</p> 	<p>■ 上げ裏や天井への施工 板間の仕上材に掛かる応力を緩和できず、タイルの割れや剥離の原因となります。</p> 
<p>■ 裏面から雨のかかる場所や塀などへの施工 裏面からの吸水や乾燥の繰り返しにより、反り、凍害の原因となります。</p> 	<p>■ 透湿性の低い防水紙の使用 プラスチック系フィルム、ルーフィング材は透湿性能が低いため、結露、凍害の原因となります。</p> 

1 設計・施工条件



<p>■ 排気口のないパラペット笠木の使用 外壁通気構造にならないため、結露や凍害の原因となります。</p> 	<p>■ 笠木の外勾配施工 笠木を外勾配にすると、雨水がタイル表面を多量に流れるため、汚れ、凍害などの原因となります。</p> 
<p>■ タイル施工後の換気口の施工 タイル張付け後に内挿形フードなどを取付けると、壁体内に湿気が入る構造となりやすいため、結露、雨漏り、凍害の原因となります。</p> 	<p>■ 伝い水の原因となる施工 サッシ枠からの排水が外壁表面を伝い流れると、サッシ両端部のタイル表面が汚れることがあります。タイル表面から30mm程度突き出たサッシ使用など対策が必要です。</p> 
<p>■ 基礎部へのモルタル埋込み施工 毛細管現象により、サイディング下地部に多量の水分が吸収されるため、凍害や塗膜剥離、カビなどの原因となります。</p> 	<p>■ 胴縁幅90mm未満での接合部の施工 下地サイディングの釘留付け幅が不足し、割れなどの原因となります。</p> 
<p>■ 間柱上の下地サイディング接合 釘の留付けが胴縁のみとなるため、十分な保持力がなくなるため、脱落、反りなどの原因となります。</p> 	<p>■ 釘の端空き寸法不足 下地サイディングへの釘打ちが、端部から20mm以下になると、割れ、欠け、脱落の原因となります。</p> 
<p>■ 下地サイディングやタイルの突付け施工 シーリングの充填量が不足し、雨漏りや凍害などの原因となります。また、建物の変形に追従できず剥離や脱落の原因となります。</p> 	<p>■ ジョイントテープ無しのタイル張りや、幅の異なるものでの施工 板間の仕上げ材に掛かる応力を緩和できず、割れ、剥離の原因となります。</p> 



<p>■ 汚れた面へのタイル張り 塵や埃が接着阻害となるため、タイルの剥離、剥落原因となります。</p> 	<p>■ 濡れた面へのタイル張り 水や水中に含まれる汚染物が接着阻害や、硬化不良の原因となります。</p> 
<p>■ 気温が5℃以下での施工 接着剤の硬化が著しく遅くなり、接着不良の原因となります。</p> 	<p>■ 指定塗布方法以外の施工 接着剤のだんご（点付け）は、硬化不良や塗布面積の不足など不具合の原因となります。</p> 
<p>■ 異なる寸法のタイル同一面張合わせ 接着剤の揉み込みが不足し、付着面積の不足など不具合の原因となります。また、仕上り面が均一にならず、意匠不具合の原因となります。</p> 	<p>■ 適切な目地を設置しないタイル突付け施工 材料の熱膨張収縮や変位により、タイルに応力が過度に掛かるため、割れ・破損・剥離の原因となります。</p> 
<p>■ 本書に記載のない部品を使用した施工 性能不足により、重大事故の原因となります。</p> 	<p>■ 金物などを併用した下地材へのタイル張り 防火認定上問題があるため、接着剤には金物併用できません。</p> 

2. 構成部材

2 構成部材

2.1. 構成部材一覧

2.1.1. タイル下地工工事用構成部材

下地性能の確保するために必要な部材です

種類	品名	品番	仕様	メーカー	梱包数量	必要数
A	入隅材 (40+40 L=3030)	RL2	ガルバリウム鋼板	(株)アイコットリョーワ	30 本/箱	0.33 本/m
B	ジョイナー (H=4 L=3030)	MJ-100	ガルバリウム鋼板 (離型紙タイプ)	(株)アイコットリョーワ	10 本/束	0.33 本/m
	片ジョイナー (H=4 L=3030)	MJK-104	ガルバリウム鋼板 (離型紙タイプ)	(株)アイコットリョーワ	10 本/束	0.33 本/m
C-1	リングネイル (φ2.4 L50)	RTN	ステンレス SUS304	(株)アイコットリョーワ	550 本/箱	10 本/m ²
C-2	留付け材 斜め連結釘 (200 本/巻 φ2.4 L50)	RTN-RX200	ステンレス SUS304	(株)アイコットリョーワ	10 巻/箱	0.05 巻/m ²
C-3	留付け材 垂直連結釘 (200 本/巻 φ2.4 L50)	RTN-RS200	ステンレス SUS304	(株)アイコットリョーワ	10 巻/箱	0.05 巻/m ²
D	シーリング POSシールLM (500ml/本)	SK-207	フィルムパック	(株)アイコットリョーワ	20 本/箱	0.3 本/m
E	プライマー プライマー	MP-1000	ウレタン系	(株)アイコットリョーワ	1 缶/梱	-
シーラー	防水シーラー (50ml/缶 1/4#)	ETP	合成樹脂系	(株)アイコットリョーワ	1 缶/梱	-
土台水切り	土台水切り (出幅 40 L3030)	KMR4-***	ガルバリウム鋼板	(株)アイコットリョーワ	10 本/箱	0.33 本/m
透湿防水シート	エアドライ (1m x 50m)	AD-50	不織布	(株)アイコットリョーワ	2 本/箱	0.02 本/m ²
防水テープ	防水テープ 50 巾 (50/75 x 20m)	ART-50	アクリル系	(株)アイコットリョーワ	24 巻/箱	0.01 本/m ²
ファイヤーストップ	ファイヤーストップ	FASP	ガルバリウム鋼板	(株)アイコットリョーワ	10 本/箱	0.33 本/m
F-1	専用基材 スタップ・ボード 1 4 (455x3030x t14)	STT-100	窯業系サイディング	(株)アイコットリョーワ	2 枚/束	0.73 枚/m ²

A~F の部材は、商品保証のために使用していただく必要のある部材です。

2.1.2. タイル張り工事用構成部材

・ 壁面性能の確保するために必要な部材です。

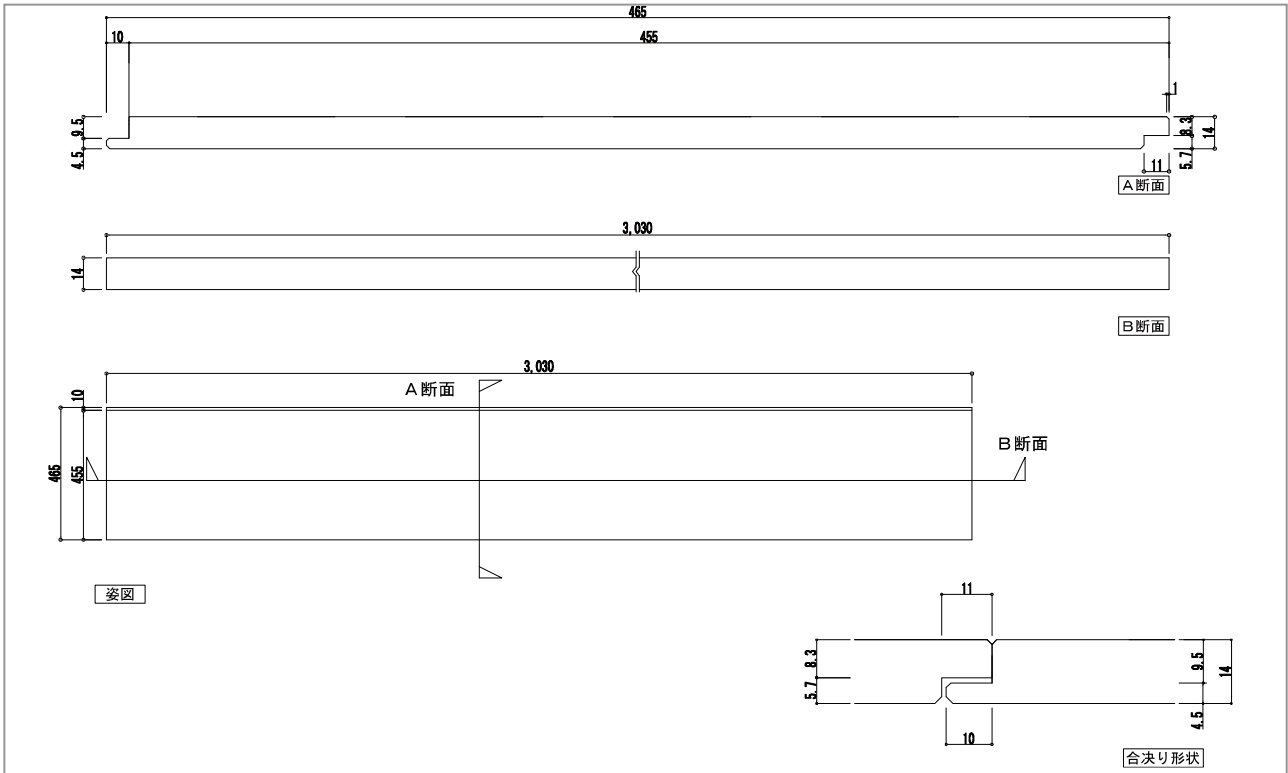
種類	品名	品番	仕様	メーカー	梱包数量	必要数
G	適用タイル	カタログ参照		(株)アイコットリョーワ	カタログ参照	
H-1	接着剤	スタップ・ジーエス (2 kg/本)	STAP-GS**	フィルムパック	(株)アイコットリョーワ	9 本/箱
H-2		スタップ・ジーエス (2 kg/本)低粘度	STAP-GLS**	フィルムパック	(株)アイコットリョーワ	9 本/箱
I-1	ジョイント テープ	ジョイントテープ 100 (20m/p t0.5)	9244-100	ブチルゴム系	(株)アイコットリョーワ	8 巻/箱
I-2		ジョイントテープ 150 (20m/p t0.5)	9244-150	ブチルゴム系	(株)アイコットリョーワ	4 巻/箱
I-3		ジョイントテープ 235 (20m/p t0.5)	9244-235	ブチルゴム系	(株)アイコットリョーワ	4 巻/箱
I-4		ジョイントテープ 300 (20m/p t0.5)	9244-300	ブチルゴム系	(株)アイコットリョーワ	2 巻/箱

必要数はタイルにより異なる

2.2. 構成部材形状





2.2.1. タイル下地工事用部材形状

・ スタップ・ボード14




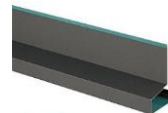




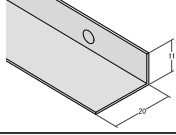
2 構成部材

2.2.2. タイル下地工事に用いる付属部材一覧

種類	入隅材	シーリング材 (標準)	プライマー	シーラー
品名	捨て入隅	POSシールLM	プライマー (POSシールLM)	防水シーラー
形状		 ディーブグレー		
品番	RL2	SK-207	MP-1000	ETP
用途	入隅部防水	板間シール	シーリング用プライマー	基材切断部吸水防止材
仕様	ガルバリウム鋼板	変成シリコン系	ウレタン系	アクリル樹脂系
入数	30 本/箱	20 本/箱	1 缶/シール20 本	1 缶/梱
寸法・容量	L3030 W40+40	500ml	500 g/缶	50ml/缶





種類	釘			ファイヤーストップ
品名	リングネイル	斜め連結釘	垂直連結釘	ファイヤーストップ
形状				
品番	RTN	RTN-RX200	RTN-RS200	FASP
用途	木造用基材留付け	木造用基材留付け	木造用基材留付け	省令準耐火構造用
仕様	SUS304	SUS304	SUS304	ガルバリウム鋼板
入数	550 本/箱	10 巻/箱	10 巻/箱	10 本/箱
寸法・容量	L50 φ2.4	200 本/巻	200 本/巻	L1850 H20

種類	透湿防水シート	土台水切り	防水テープ	オーバーハング水切り
品名	エアドライ	土台水切り	防水テープ両面	オーバーハング水切り
形状		 3M ホワイト 3M ブラック 3M ブラウン 3M ステンカラー		
品番	AD-50	KMR4-***	BRT-50	OH2-***
用途	躯体防水	土台部水切り材	開口部等防水	オーバーハング部水切り材
仕様	不織布	ガルバリウム鋼板	ブチルゴム系	ガルバリウム鋼板
入数	2 本/箱	-	20 巻/箱	10 本/箱
寸法・容量	1m x 50m	L3030 W40	20m/巻	L3030 W45

種類	ハット型ジョイナー		スターター
品名	ハット型ジョイナー	片ハット型ジョイナー	スターター金具
形状			
品番	MJ-100	MJK-104	STAP SKS20
用途	板間ジョイナー	開口部等ジョイナー	スターター金具
仕様	ガルバリウム鋼板	ガルバリウム鋼板	ガルバリウム鋼板
入数	10 本/束	20 本/束	10 本/束
寸法・容量	L3030 H4	L3030 H4	L3030 H11

2.2.3. タイル工事中用構成部材一覧

名称	弾性接着剤	目地材	保護剤	タッチアップ剤
品名	スタップ・ジーエス	ブリックマスター	フェイスコート	タッチアップ剤 (溶剤形)
形状				
品番	STAP-GS/Gr Wh	IC-***	SIZAI FACE	SIZAI TOUC
用途	タイル用接着剤	目地材	タイル切断面保護剤	アクリルシリコン樹脂 (溶剤形)
仕様	変成シリコン系	既成調合モルタル	シリコン系溶剤	溶剤形
入数	9本/箱	25kg/袋	1缶/梱	1缶/梱
容量	2kg/本	-	500cc/缶	50ml/缶

名称	補修材	ジョイントテープ		
品名	ハイクック	ジョイントテープ150	ジョイントテープ235	ジョイントテープ300
形状				
品番	STAP CA-290	9244-150	9244-235	9244-300
用途	割れ補修	増し貼り用	増し貼り用	大形タイル用基本テープ
仕様	エポキシ樹脂系	ブチルゴム系	ブチルゴム系	ブチルゴム系
入数	混合用2液/箱	4巻/箱	4巻/箱	2巻/箱
容量	500g/箱	20m/巻	20m/巻	20m/巻

2.3. 工事中用工具

名称	クシ目コテ	ダイヤモンドホイール	充填工具	振動工具 ※
品名	5mmクシ目コテ	ダイヤモンドホイール	クリーンバックガン	タイルパッチ (京セラ)
形状				
品番	STAP KSK5	STAP DW-106	STAP CG	BTP-722
用途	接着剤塗布	タイル切断	接着剤・シーリング充填	接着剤塗布促進
仕様	ステンレス	ダイヤモンドホイール	-	-
入数	1丁/梱	1枚/梱	1丁/梱	-
容量	210 x 70	φ 100	ノズル2ヶ同梱	-

※1 メーカーの取扱説明書に従って安全に使用してください。

名称	ホールソー	
品名	ホールソーφ30	ホールソーφ45
形状		
品番	STAP KOAN A30	STAP KOAN A45
用途	グラインダー用孔空け	グラインダー用孔空け
仕様	ダイヤモンドホールソー	ダイヤモンドホールソー
入数	1ヶ/本	1ヶ/本
容量	φ30.0	φ45.0

3. タイル下地工事施工手順

3 タイル下地工事施工手順

3.1. 工程図

3.2 事前チェック



3.3 土台水切りの取付け



3.4 開口部廻りの防水テープ



3.5 透湿防水シートの施工



3.6 胴縁の取付け



3.7 付属部材の取付け



3.8 スタップ・ボードの切断・留付け



3.9 シーリング工事



3.10 清掃・残材処理



3.11 補修・点検

躯体および
タイル下地工事

3.2. 事前チェック

躯体およびタイル下地サイディング工事は、次工程であるタイル工事の仕上がり性能に大きな影響を与えます。下記要領で躯体およびタイル下地サイディング工事が行われるように、関係者で事前に打ち合わせを行ってください。

3.2.1. 構造体の下地の確認

仕上がりを美しくするには、下地精度が大きな決め手となりますので、段差の無いように施工してください。

● 木造軸組工法

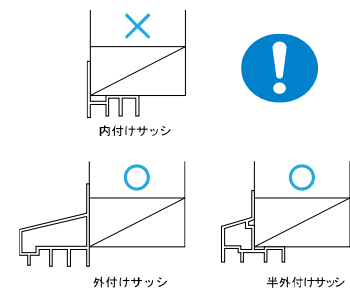
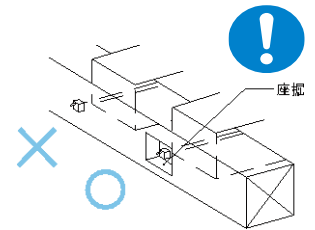
- ・ 間柱は、30×105mm以上を使用され、柱・間柱の間隔は芯々500mm以下で取り付けてあることを確認してください。
- ・ 間柱が入っていないと胴縁やタイル下地サイディングの留付け強度が確保できません。
- ・ 柱、間柱、桁、胴差は外面合わせにして凹凸の無いことを確認してください。
- ・ 不陸限度の目安として、柱・間柱の目通りを3mm以内であることを確認してください。
- ・ 入隅部などで、胴縁を留付ける部分に下地があることを確認してください。下地が無い場合には、補助材や添え木を設けて胴縁の留付けができるようにしてください。
- ・ ボルト頭類は座掘りして納めてあるか確認してください。

● 枠組壁工法

- ・ 構造用合板は厚さ9mm以上が使用されているか確認してください。構造用合板以外は使用できません。
- ・ 構造材は乾燥材が使用されているか確認してください。
- ・ 下地・構造用合板等是不陸や段差の無いことを確認してください。出隅・入隅・軒天部等の下地、構造用合板の突き付け部は、片方の構造用合板が突き出さないように施工されていることを確認してください。
- ・ スタッド(芯材)の間隔は芯々500mm以下であることを確認してください。
- ・ 入隅部などで、胴縁を留付ける部分にスタッド(芯材)がない場合には、補助材や添え木を設けて胴縁の留付けが構造用合板のみにならないようにしてください。
- ・ ボルト頭類は座掘りして納めてあるか確認してください。
- ・ 枠組壁工法では、帯金物の湾曲を抑えるために屋根施工後できる限り期間をあげ、外壁工事直前に帯金物を取り付けるようにしてください。

● サッシおよび開口部の確認

- ・ サッシの位置、規格に変更が無いか確認してください。
- ・ サッシおよびサッシ水切り金物の取付けが終わっているか確認してください。
- ・ 内付けサッシでは、スタップ・ボードの小口処理ができず、施工できませんので、使用しないでください。
- ・ 妻換気ガラリ、レジスターフード他、先付け設備器具の取付けが終わっているか確認してください。



3.2.2. 板金工事の確認

- ・ 屋根とスタップ・ボードとの取合い部は、仕様通りになっているか確認してください。
- ・ 出窓、庇、下屋等とスタップ・ボードとの取合い部は、仕様通りになっているか確認してください。

3 タイル下地工事施工手順

3.2.3. 材料の確認

- ・仕様通りの材料が必要量納入されているか確認してください。
- ・仕様通りの専用付属品が必要量納入されているか確認してください。
- ・材料の養生がされているか確認してください。
- ・材料集積場所および養生方法の打合せがされているか確認してください。

3.2.4. 安全工事の確認

- ・現場の安全管理規定を守ってください。
- ・作業員は正しい服装をし、定められた保護具（ヘルメット等）を正しく着用してください。
- ・作業終了時の後片付け、整理整頓を確実に行ってください。
- ・1日の作業量を考えて、足場に上げた材料を使いきり、翌日に残さないでください。
- ・風などによる落下防止の対策を毎日確認してください。
- ・火災予防に気を付けてください。



3.2.5. 作業足場の確認

- ・足場の安全状態を確認してください。
- ・作業の為にはずした筋かい、足場、控え等は、作業後速やかに元の場所に戻してください。

3.2.6. その他の確認

- ・基準墨出しがされているか確認してください。
- ・残材処理方法（1カ所集積等）は決定しているか確認してください。

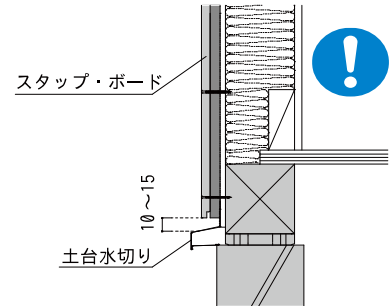
3.3. 土台水切りの取付け

3.3.1. 材料

土台水切り：KMR4-*** (3WT ホワイト 3BK ブラック 3BN ブラウン 3SG ステングレー)
壁面仕上り厚さを考慮した形状を選定してください。

3.3.2. 工事

- ・水平基準墨に従って、土台部に水切りを取付けてください。
- ・ストップ・ボードと土台水切りの取合いは、10～15mmのすき間を設けてください。



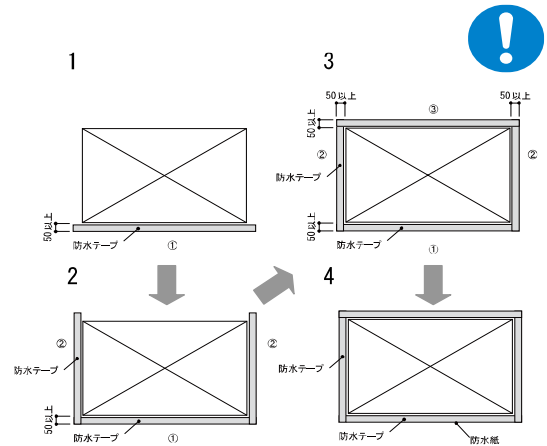
3.4. 開口部廻りの防水テープ張り

3.4.1. 材料

防水テープ：ART-50
または、NYG協会推奨の幅50mm以上の両面防水テープ

3.4.2. 工事

- ・防水テープを右図の番号順にサッシのツバと躯体に張り付けてください。サッシのツバと透湿防水シートの取り合い部から雨水の浸入の無いよう、隙間が出来ないように十分に透湿防水シートを圧着してください。
- ・下地は段差、隙間、突起物の無いように仕上げてください。
- ・接着を妨げるほこり、油染み等は必ず拭き取ってください。



3.4.3. ポイント

- ・先張り防水シートが有る場合には、先張り防水シートの下に透湿防水シートを挿入してください。(その際は、防水テープは不要です)
- ・下地への接着面の離型紙のみを剥がし、上図順序(両側→上部)にてゴムローラーで十分に転圧しながら張り付けてください。また、テープジョイント部は、先張りテープが後張りテープより突出しないよう施工してください。
- ・表面の離型紙は透湿防水シート施工の直前まで絶対に剥がさないでください。なお、透湿防水シートはテープ張り付け後7日以内に施工してください。
- ・透湿防水シート施工後も空気の抱き込みのないよう、よく転圧してください。

3 タイル下地工事施工手順

3.5. 透湿防水シートの施工

スタップ・ボードは正しい施工を行うことにより一次防水の機能がありますが、多量の降雨に強風が加わるような条件下では、多少の雨水の浸入は避けられません。従って、二次防水として透湿防水シート、防水テープの正しい施工を必ず行ってください。

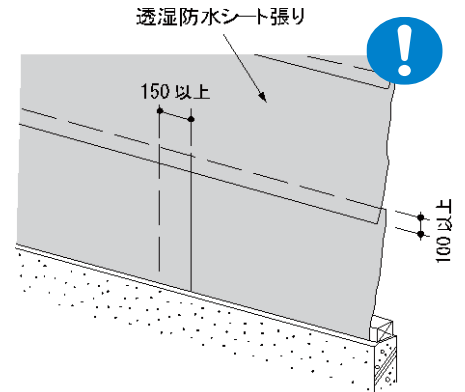
3.5.1. 材料

透湿防水シート：エアドライ（1m x 50m）

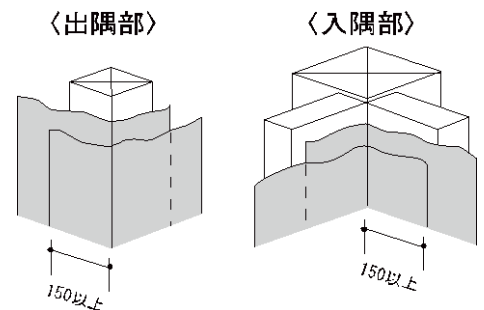
※ 透湿性の低いプラスチック系フィルムは、内部結露を起こしやすいので使用しないでください。

3.5.2. 工事

- 透湿防水シートを張る前に、サッシ枠と透湿防水シートを密着させるため、開口部廻りや換気口廻りなどに防水テープを張ってください。
- 張り方は横張りとし、下から張り上げ、重なりは上下100mm以上、左右150mm以上としてください。面材等が無い場合には、左右の重なり部は必ず柱・間柱のある位置に留めてください。

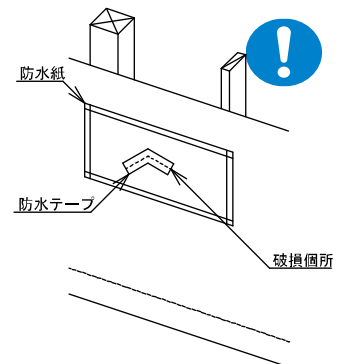


- 出入隅部は、重ねを左右150mm以上ずつとし、2重張りしてください。（約300mm以上の重ね張り）
耐力壁がない場合は、入隅部では両隣の柱（間柱）があるところに留め、出隅部では両方向とも柱幅程度重ねて留めてください。
なお、出隅部は通し張りとする事もできます。
- 土台水切り、中間水切り、屋根雨押え水切り部位には透湿防水シートを水切りの上にかぶせてください。（水切り立ち上がり寸法の半分程度）



3.5.3. ポイント

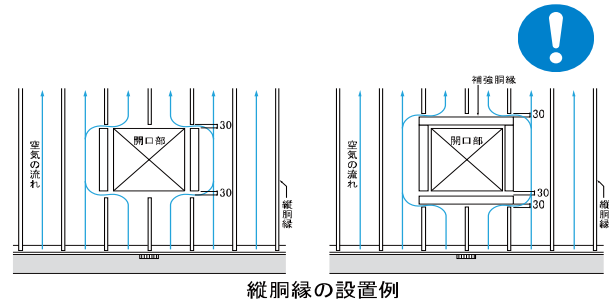
- 透湿防水シートはたるみの無いように張ってください。
万一破れた場合は、その箇所から雨水等が入り込まないように透湿防水シートを重ね張りして補修するか、透湿防水シートを張り直してください。
- メーカーで薬剤処理された胴縁を使用する場合には、十分に乾燥していることを確認の上、使用してください。
現場で薬剤処理をおこなう場合には、必ず胴縁を施工する前に防腐剤・防蟻剤を塗布し、よく乾燥させてから使用してください。
*胴縁施工後に防腐剤、防蟻剤を塗布すると透湿防水シートに付着し、透湿防水シートの性能を損ないますので、胴縁は必ず施工前によく乾燥させてから使用してください。
- 上記同様に土台・柱などの構造躯体の防腐・防蟻処理も、透湿防水シートを張る前に塗布し、良く乾燥していることを確認してから透湿防水シートを施工してください。
- 胴縁を取付けた場合は速やかにスタップ・ボードの施工を完了し、胴縁を濡らさないようにしてください。



3.6. 胴縁の取付け

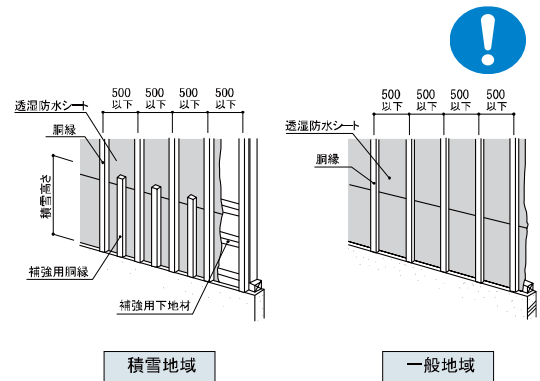
3.6.1. 材料

胴縁は釘の保持力確保のため、18mm×45mm 以上のものを使用してください。
ただし、釘の保持力が確保できる材質（べいつが、べいまつ、とどまつ、まつ等）
の場合は、15mm 以上とすることができます。



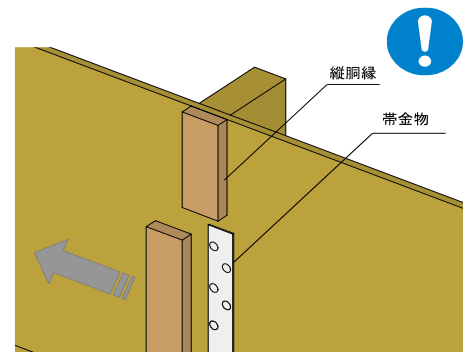
3.6.2. 工事

- ・ 胴縁を長さ 65 mm 以上のステンレスくぎ（現調）、鉄丸くぎ（現調）、
または $\phi 3.8 \times 50\text{mm}$ 以上のステンレス木ビス（現調）を 500 mm 以内の間隔で柱・間柱に
留め付けてください。
- ・ 左右接合部、出・入隅部、開口部の胴縁は、スタップ・ボード施工時の釘の端打ち寸法
確保及び安定のため、ダブル幅（90mm 以上）になるよう下地組を行ってください。
- ・ タイルの仕上がり外観は、下地の状態に大きく左右されます。下地の不陸・突出物を調
整してから施工してください。



3.6.3. ポイント

- ・ 胴縁は良く乾燥し、ねじれのない平坦なものを使用してください。
- ・ 胴縁は防腐処理材を使用してください。また、十分に乾燥していることを確認してから使用してください。
- ・ 積雪地域では、補強のため雪の積もる高さまで補強用胴縁を胴縁の間に取付けてください（2階下屋部分も同様としてください）
- ・ スタップ・ボードが開口部の上下で、割り付け幅 9 mm 以下となる場合は、補強胴縁を取付けてください。
- ・ 木造枠組工法で、帯金物と胴縁が干渉する取合いは、帯金物を避けて胴縁を留付けてく
ださい。
留付けは、 $\phi 3.8 \times 50\text{mm}$ 以上のステンレス木ビスで、構造用合板に留付けてください。



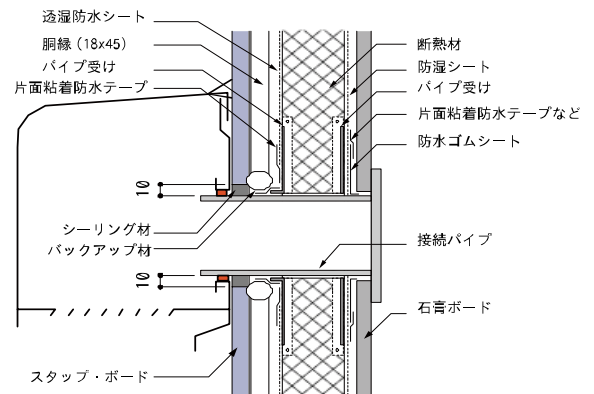
3 タイル下地工事施工手順

3.7. 付属部材の取付け

3.7.1. 換気口廻り

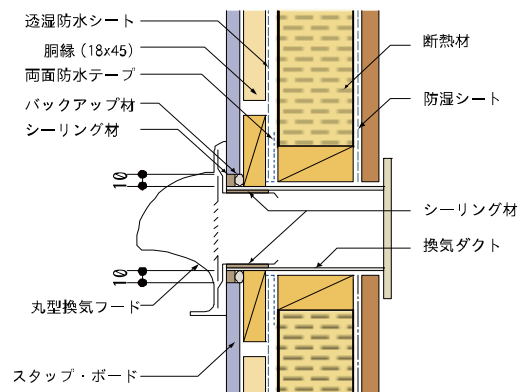
● 外挿形

- ・ 換気フードは、スタップ・ボード施工前に取付けてください。
スタップ・ボードの施工後に取付けると壁体内に湿気が入る構造になりやすく、結露などの問題を引き起こすことになります。
- ・ 換気フード内では結露が発生しやすくなっていますので、結露水が壁体内に漏水しないようスリーブの継ぎ手の防水は完全に処理してください。
- ・ フードとスタップ・ボードのすき間は10 mm以上あげシーリング工事してください。
また、排気口とタイルの仕上げ面から30 mm程度離してください。



● 内挿形

- ・ 内挿型の丸型換気フードを使用する場合は、換気口の下部より結露水が流れ出し、外壁表面に伝わらないよう水切り等を取付け、外壁表面より30 mm程度あけるようにしてください。
- ・ 結露水がサイディング下地裏面に廻らないように、鞘管外周にシールを盛り、フードパイプを挿入してください。
- ・ 本書に合わせて、以下マニュアルも参考にしてください。
NPO法人住宅外装テクニカルセンター「換気口周辺の防水施工マニュアル」



3.7.2. 設備機器や看板などの取付け

- ・ 設備機器等の取付けは補強材をあらかじめ施工し、その補強材に取付けてください。

3.8. スタップ・ボードの切断・留付け

3.8.1. 材料

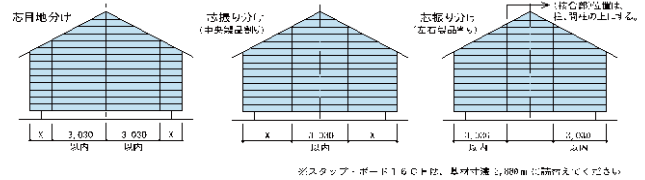
専用下地材：スタップ・ボード14

専用留付け材：リングネイル (RTN, RTN-RX200, RTN-RS200)

3.8.2. 工事

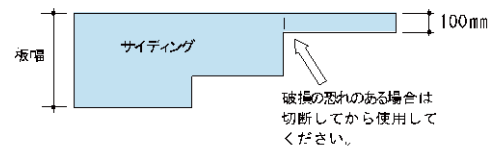
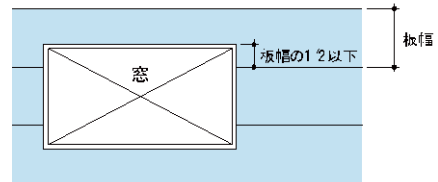
● スタップ・ボードの割付

- ・スタップ・ボードは横張りとしてください。
- ・建物全体のバランスと材料ロスを考えて割り付けてください。
- ・開口部廻りや軒天部などで、スタップ・ボードを上下で切断する場合は、小幅物が発生しますので設計に留意してください。
- ・高さ方向の割付は、土台水切りを基準としてください。



● スタップ・ボードの小幅物・切断部

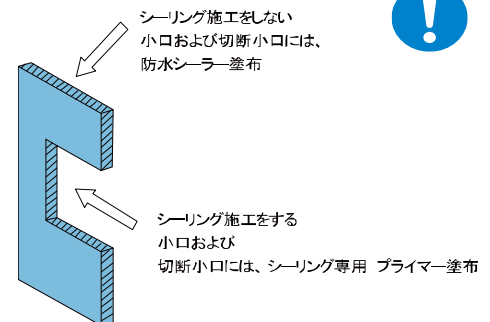
- ・複雑な小幅物ができると、施工能率が悪くなり雨仕舞いも不完全になるため、不規則な割り付けにならないように注意してください。
- ・スタップ・ボードは、小幅物になると折れやすくなるので、100mm以下の割り付けは避けてください。
- ・100mm以下の小幅物スタップ・ボードの場合は、折れないように取り扱いに注意すると共に、必ずドリルで下穴を開けてから釘留めしてください。
- ・100mm以下の切り欠きがある場合は、あらかじめ切断して張り上げ、目透しシーリング処理をしてください。その際の釘留め箇所には必ず下地を入れてください。
- ・開口部廻りの切り欠き部が、板幅の2分の1以下になるようにしてください。板幅の2分の1以下の場合、標準の作業で施工できますが先穴をあけてから釘打ちしてください。



3.8.3. スタップ・ボードの小口処理

シーリング施工をしない小口および切断小口には必ず防水シーラーを充分塗布してください。

- ・基礎部 小口面
- ・下屋根部 小口面
- ・その他 小口面 (例：オーバーハング部、中間水切り部)

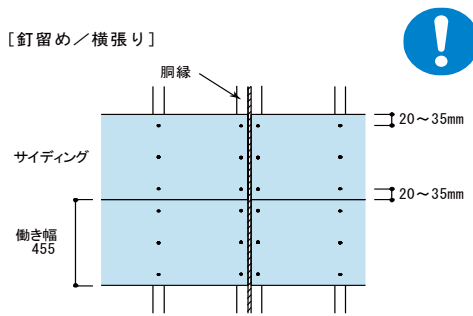


3 タイル下地工事施工手順

3.8.4. スタッブ・ボードの取付け

- ・ スタッブ・ボードの取付けは水平レベルを確認してから行ってください。
- ・ 釘の留め付けは、胴縁のある位置で留め付けてください。
長さ方向に対して500mm以下
- ・ 釘の端開き寸法は20～35mmとしてください。また、表面の欠けの発生などを避けるため先丸加工後、釘留めしてください。
- ・ 面精度は±1.0mm / 2mとしてください。!
- ・ 留付けが構造用面材のみとなる場合は、ビス（コンフィットφ4.0 l41）を使用してください。

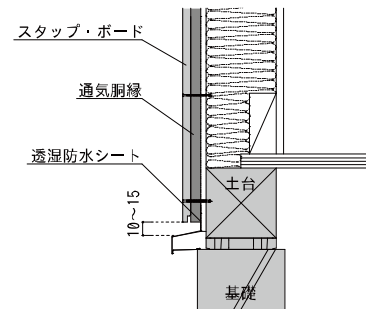
[釘留め／横張り]



3.8.5. ポイント

● 基礎回り

- ・ 水平墨出しを行い、土台水切りを取付けてください。
その後、透湿防水シートを土台水切りの立ち上がりにかぶせて張ってください。
- ・ スタッブ・ボードの下端は、毛細管現象の防止、結露水の排出、及び躯体の荷重による変位吸収のため、10～15mm程度の隙間を開けて施工してください。
土台水切りとスタッブ・ボードの小口はシーリング材等でふさがらないでください。

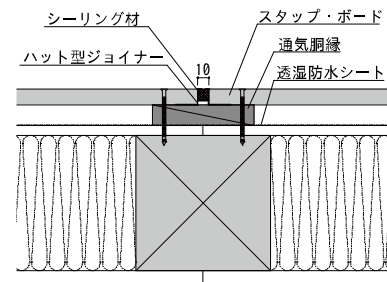


● 一般部

- ・ 縦目地の位置には、ハット型ジョイナーを取付けて、目地幅10mmを確保してください。

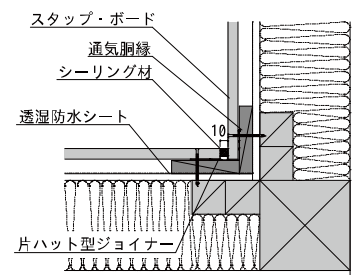
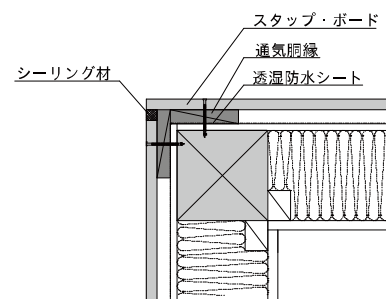
● 出隅部

- ・ 釘の留付け位置は、柱寸法および胴縁位置を考慮した位置としてください。
- ・ 出隅部の下地胴縁は耐衝撃性を確保するために必ず縦胴縁を使用してください。
- ・ 出隅部は、スタッブ・ボードを胴縁の外面以下で施工し、目地幅を確保してください。
スタッブ・ボード勝ち負けとする場合は、負け面同一以下とし、勝ち側が突出しないよう注意ください。!



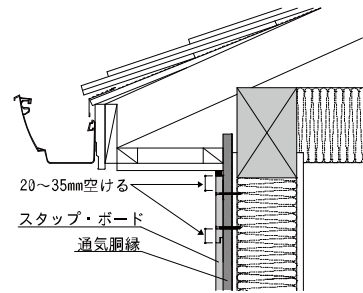
● 入隅部

- ・ 躯体の振動などによるスタッブ・ボードの横ズレ防止のため、必ずハット型ジョイナーを使用してください。
- ・ 入隅部では柱に補助桟を使用し、縦胴縁と捨て入隅を取付けた後、スタッブ・ボードを確実に取付けてください。
- ・ 入隅部では片ハット型ジョイナーを取付けて10mmの目地幅を確保してください。
- ・ 入隅部は特に風雨が集まりやすくなります。防水紙（コーナー左右100mmの重ね）やシーリング材など雨仕舞いには十分注意してください。



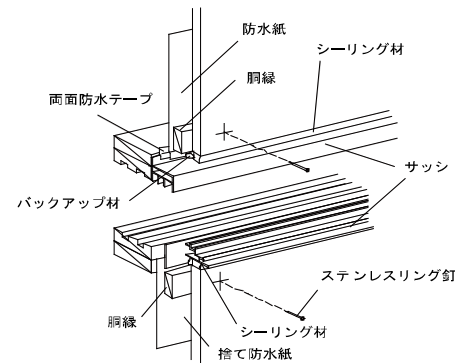
● 軒天部

- ・ 最上部のスタップ・ボードは、割付に合わせて切断し、胴縁およびスペーサーを取付け、釘の端あきを20~35mm程度確保し留め付けてください。



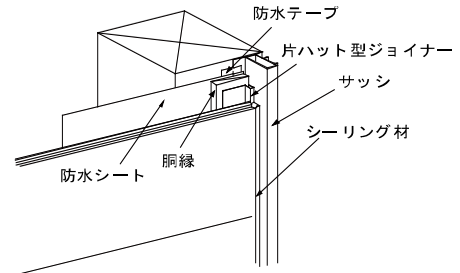
● 開口部 (縦断面)

- ・ サッシ廻りではシーリング材の目地幅10mmをあけて施工してください。釘留めをする際には、スタップ・ボード端部から20~35mmの位置に先穴をあけてから釘留めしてください。



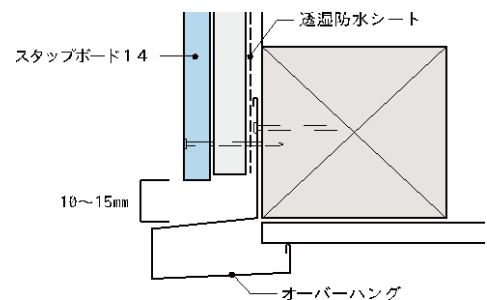
● 開口部 (横断面)

- ・ 開口部の縦枠とスタップ・ボード本体の取り合いでは、片ハット型ジョイナーを使用して(スタップ・ボードの横ズレ防止のため)、目地幅10mmを確保してください。スタップ・ボードを突き付けての三角シーリングは行わないでください。



● オーバーハング部

- ・ スタップ・ボードとオーバーハング部用水切りの間は10~15mmあけてください。また、入隅部の端から50mm程度シーリング材を施工してください。
- ・ 割り付け上、スタップ・ボードを切断した場合は、スタップ・ボード小口には防水シーラーを十分に塗布してください。釘留めをする際には、スタップ・ボード端部から20~35mmの位置に先穴をあけてから釘留めしてください。
- ・ シーリング施工を行う箇所には必ずシーリング専用プライマーを塗布してください。縦目地部、小口面開口部、換気口廻り小口面軒天、出隅、入隅など



3 タイル下地工事施工手順

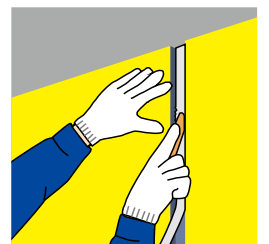
3.9. シーリング工事

3.9.1. 材料

シーリング材：POSシールLM（専用プライマー：MP-1000）
ジョイナー：ハット型ジョイナー（MJ-100）、片ハットジョイナー（MJK-104）
充填工具：クリーンパックガン（STAP CG）

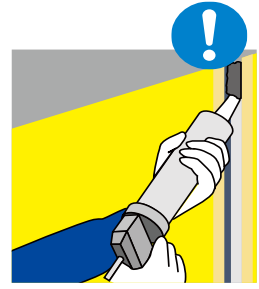
3.9.2. 工事

- 事前確認
 - ・シーリング材打設部分の目地幅が、10 mm以上確保されているか確認してください。
 - ・養生テープにガムテープなどの粘着性の強いテープは、化粧面の剥離や、粘着材が残ったりしますので使用しないでください。
- 施工前の天候確認
 - ・シーリング材の工事は晴天の日に行ってください。
 - ・前日が雨や雪の場合は、被着面が十分に乾燥している状態を確認の上、施工してください。
 - ・外気温が5℃以下、または被着面の温度が50℃以上の場合は、マスキングテープの粘着異常、シーリング材の硬化不良や発泡などの不具合が起きるので施工を中止してください。
 - ・万一天候があわない場合は、作業を中止してください。
- 被着面の清掃
 - ・被着面のゴミ、油分、水分はハケや布で除去した後、拭き取ってください。
 - ・被着面のゴミ、油分、水分は、シーリング材の接着不良になります。
- バックアップ材またはボンドブレイカーの充填
 - ・目地幅は10 mm以上、目地深さは8~10 mm程度確保してください。
 - ・シーリング材の伸縮自在性を確保するため、3面接着を防止できる専用ハット型ジョイナーを使用するか、目地幅にあったバックアップ材、またはボンドブレイカー（剥離テープ）付きハット型ジョイナーを使用し、正しく施工してください。
 - ・開口部、軒天部等、他部材との取り合い部の目地には、バックアップ材を充填して、3面接着を防止し、目地深さを確保してください。
- マスキング養生テープ張り
 - ・目地の両側に沿ってマスキングテープを張ってください。この時シーリング材がスタップ・ボード表面にはみ出さない様、端からきちんと注意して張ってください。スタップ・ボード表面にはみ出すと、不陸の原因となりますので、注意してください。
 - ・マスキングテープを張り付けて長時間放置すると、スタップ・ボード表面を損傷することがありますので、張り付け後2日以内でシーリングが硬化しないうちに剥がしてください。
 - ・マスキングテープはスタップ・ボード用を用い、ガムテープなどの粘着性の強いテープの使用は避けてください。
- プライマー塗布
 - ・プライマーは、適切な刷毛（同梱）を使用し、塗り残しの無いよう均一に確実に塗布してください。シーリング材と同梱のプライマーは、シーリング材本数に見合うロス込みの必要量です。残さずに全量を使い切ってください。
 - ・プライマーの塗布後30分以上6時間以内にシーリング材を施工してください。
 - ・被着面以外には、プライマーが付着しないように注意してください。
 - ・プライマー塗布漏れは、シーリング材の接着不良になります。



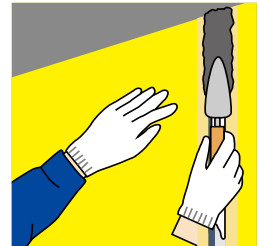
●シーリング材の充填

- ・ 目地幅に合わせたノズルで気泡、打ち残し、隙間なく目地の隅々まで盛り上げるようにシーリング材を充填してください。
- ・ 盛り上りが不足すると、接着不良になりますので注意してください。



●ヘラ押え

- ・ ヘラなどを用い、シーリング材を押し込むようにして表面を平滑にしてください。
- ・ ヘラ押えは、シーリング材表面が硬化する前に行い、充填後 30 分以内が目安となります。
- ・ ヘラ押えをしないと接着不良になりますので、注意してください。



●マスキングテープ剥がし

- ・ シーリング材が硬化しない間に、マスキングテープを速やかに棒切れ板などに巻き付けながら剥してください。
- ・ マスキングテープ上にはみ出したシーリング材が、スタップ・ボード表面に付着しない様に注意して行ってください。
- ・ シーリング材が完全に硬化しないうちに、振動や衝撃を与えないでください。



●清掃

- ・ マスキングテープの糊、充填箇所以外に付着したシーリング材及びプライマーは拭き取ってください。

●仕上りのチェック

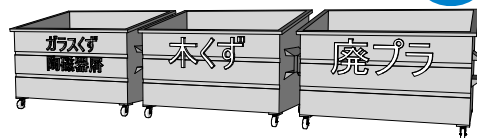
- ・ 施工目地幅よりはみ出したシーリング材や、板表面に付着したシーリング材をそのまま放置すると、タイル面の不陸原因となりますので完全に除去してください。
- ・ 充填作業終了後、目視にてシーリング材の打残し、表面の凹凸気泡などの仕上り状態をチェックしてください。
- ・ 各工程、仕上り状態など、工事チェックリストを用いて確認しながら施工してください。

3 タイル下地工事施工手順

3.10. 清掃・残材処理／補修・点検

3.10.1. 清掃・残材処理

- ・ スタッブ・ボードの施工箇所だけでなく、足場や基礎回りなどの清掃を行ってください。
また、残材は指定場所に処理ください。



3.11. 補修・点検

- ・ スタッブ・ボードの取付けに不具合が無いか、P.54 タイル下地工事自主チェックシートに従って確認してください。
- ・ 不具合があった場合には、補修・張り替えを行ってください。

4. タイル張り工事施工手順

4 タイル張り工事施工手順

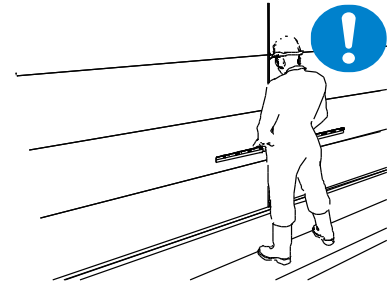
4.1. 工程図



4.2. タイル下地サイディングのチェック

4.2.1. 工事

- ・ タイルの仕上がり精度は、下地の精度に影響されるため、2mスパンで $\pm 1.0\text{mm}$ 以内を確認します。
- ・ 下地面の状態が、タイル張りを行うのに不適切であると判断される場合には、現場管理者に報告し、適切な処置をしてから次工程の工事を行ってください。
- ・ ジョイントテープおよび接着剤の接着を阻害するほこり、切断粉などの汚れ、不陸の原因となるシーリングのはみ出し等がないか確認し、ある場合はこれらを除去してください。
- ・ 水濡れがある場合は、ジョイントテープおよび接着剤の接着を阻害するため、乾燥してから施工してください。



4.2.2. ポイント

- ・ タイル面の不陸や反りの発生、接着不良などが起こる可能性がありますので、指定の下地・釘・ビスが使用されているか、釘・ビスの本数が適切かを確認してください。
- ・ 下地表面に有機系塗料などが付着していると、接着剤に染み出しが生じる場合がありますので必ず除去してください。

4 タイル張り工事施工手順

4.3. 板間処理（ジョイントテープ貼り）

4.3.1. ジョイントテープの効果

下地材継ぎ手部は、応力が集中する箇所です。ジョイントテープはその応力を緩衝し、タイルクラックなどの発生を防止するために施工します。

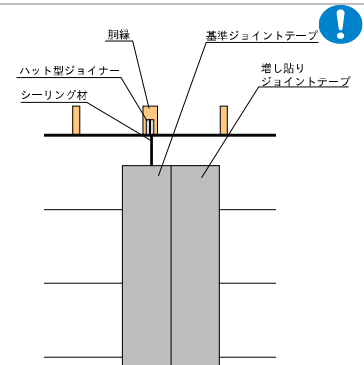
4.3.2. 材料

- ・ ジョイントテープは、使用するタイルの長さより広い幅のテープを使用してください。（下表参照）
- ・ ジョイントテープの最大幅は300 mmです。そのため、600 mm幅のタイルを張り付ける場合は、ジョイントテープを増し貼りしてください。
- ・ 出隅部で平役物を使用する場合も、出隅部のジョイントテープは必要となります。

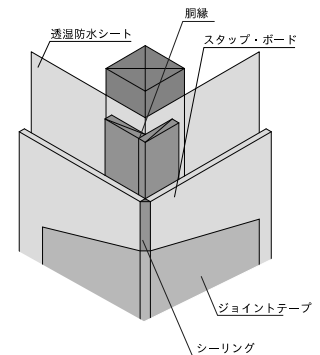
タイルの種類	ジョイントテープの幅	品名	品番
300 x 300 mm	300 mm	ジョイントテープ300	9244-300
600 x 140 mm	300 mm x 2列 または、目地をまたがない割付	ジョイントテープ300	9244-300
455 x 227 mm	300 mm + 150 mm または、目地をまたがない割付	ジョイントテープ300、150	9244-300, 150
600 x 300 mm	300 mm x 2列 または、目地をまたがない割付	ジョイントテープ300	9244-300

4.3.3. 工事

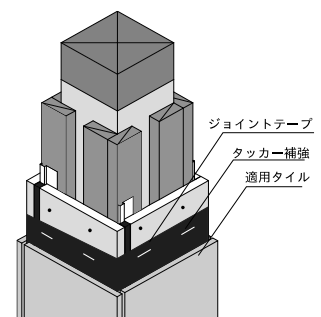
- ・ ジョイントテープは、サイディングの縦ジョイント部、出隅部に貼り付けます。



- ・ 出隅部では、ジョイントテープを中央で折り返して貼り付けてください。
- ・ タイルの最大長さがジョイントテープの幅を超える場合には、左右どちらかにジョイントテープを増し貼りし、タイルがジョイントテープをまたがないようにしてください。
- ・ 通し目地などでタイルがジョイントテープに全て乗った状態になる場合は、ジョイントテープのズレおよび剥離防止のために、タッカー、ビスまたはタイル張り用接着剤で補強してください。

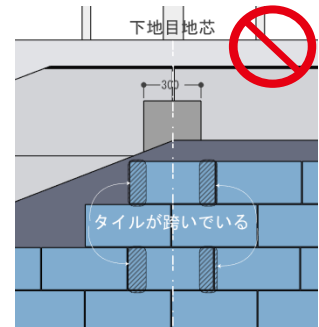


- ・ 柱型などのように、タイルを張付ける面全てがジョイントテープで覆われる場合は、タッカー・ビスまたはタイル張り用接着剤でジョイントテープを補強します。



4.3.4. ポイント

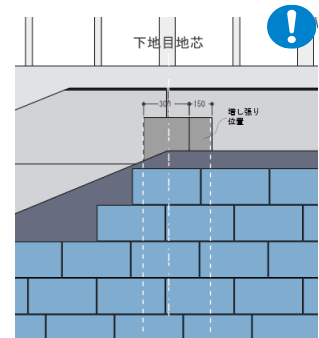
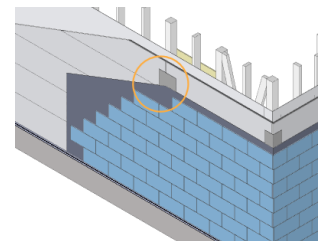
- ・ ジョイントテープの貼り付けは、下地およびシーリング部分とジョイントテープをしっかりと密着させて貼り付けます。
特にジョイントテープの縁端部はしっかりと押えてください。
このとき、空気の巻き込みや、シワにならないように注意してください。シワになった部分は、新しいジョイントテープで再施工してください。
- ・ 貼り付け時の押さえ方が不十分な場合には、段差や剥がれの原因となります。
- ・ 重ね貼りすると、テープが剥がれたり段差が発生したり仕上がりに影響する場合があります。
- ・ 一度剥がれたジョイントテープは粘着力が低下するため、再使用しないでください。
- ・ タイルはジョイントテープを跨いで、下地に張り付けることはできません。



4.3.5. ウマ張りのポイント

大形タイルをウマ張りする場合は、右図を参考にジョイントテープ貼付位置を検討してください。タイル幅と同じジョイントテープを使用してください。

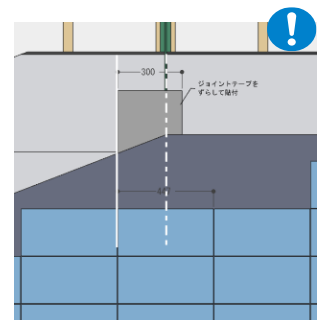
- ・ タイル全てがジョイントテープに乗らないように、タイル割付けに応じてジョイントテープの増し張り位置を調整してください。
- ・ 左右どちらかのタイル端部が必ずサイディング下地に接着するように、ジョイントテープの貼付位置の検討が必要です。



4.3.6. スタレ張りのポイント

タイルをスタレ張りする場合は、右図を参考にジョイントテープ貼付位置を検討してください。

- ・ タイル全てがジョイントテープに乗らないようにしてください。そのため、タイル幅のジョイントテープ幅とならないよう増し貼りしないでください。
- ・ タイル端部が必ずサイディング下地に接着するように、ジョイントテープの貼付位置を検討してください。
- ・ ジョイントテープは、タイル左右どちらか端部と揃う位置に貼付してください。
- ・ タイル割付けはサイディング下地目地を基準とし、タイル両端が下地目地を跨いで下地と直接接着することは避けてください。



4 タイル張り工事施工手順

4.4. 不陸調整

タイルの仕上がりに影響するような不陸は、接着剤スタップ・ジーエスを塗付けて不陸の調整を行ってください。

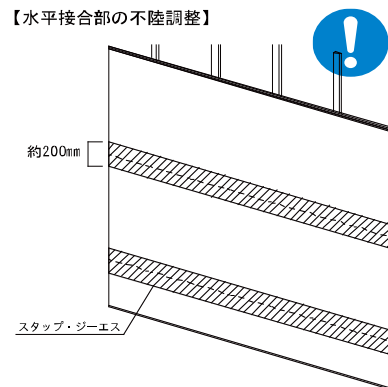
4.4.1. 材料

接着剤： スタップ・ジーエス
張付け接着剤と同じ色で不陸調整を行ってください。

4.4.2. 工事

- ・ 不陸調整を行った場合は、不陸調整のために塗付けた接着剤が硬化した後に、接着剤の塗布とタイル張りを行ってください。
- ・ 塗り重ねる場合は、スタップ・ジーエス硬化後に行ってください。

【水平接合部の不陸調整】



4.5. タイルの割付け

4.5.1. 工事

- ・ 開口部廻り、出隅部、入隅部、換気扇廻り、樋受け金物の位置等に注意して小さな切り物が入らないように割付けてください。
- ・ タイルの目地幅は適正に設定し、突付け目地としないでください。

4.6. タイルの墨出し

- ・ タイルの割付けに従って、墨出しを行ってください。
- ※ 油性マジックなどは使用しないでください。接着剤に染み出しが生じます。

4.7. タイル張り

4.7.1. 材料

接着剤： スタップ・ジーエス
 タイル： 適用タイル

- ・ 塗布量の目安を以下に示しますので、監理の参考にしてください。

タイルの寸法	標準使用量の目安	コテ種類	塗布方法
300 x 300 mm	2.5 kg/㎡	5mmクシ目コテ	クシ目立て
600 x 140 mm	2.5 kg/㎡	5mmクシ目コテ	クシ目立て
455 x 227 mm	2.5 kg/㎡	5mmクシ目コテ	クシ目立て
600 x 300 mm	2.5~3.0 kg/㎡	5mmクシ目コテ (7mmクシ目コテ)※	クシ目立て

※ 下地状態や段差などの影響が大きい場合は、適宜使用してください。

- ・ 接着剤は2種類ありますが、ダレ防止・仕上り品質よりスタップ・ジーエス（ブルー）を使用してください。

名称	姿図	包装	カラー バリエーション	特徴
スタップ・ジーエス		ブルー	グレー ホワイト	空目地の際には、グレーまたはホワイトの選択ができます。

4.7.2. 工事（接着剤の塗布）

- ・ スタップ・ジーエスを下地に塗り付けた後、かき取るようにしてくし目を立ててください。
- ・ かき取りはコテを下地面に対し45°~60°程度に傾けて下地が透けないようにかき取ってください。
- ・ タイル下地サイディングの水平ジョイント部の溝部分には、スタップ・ジーエスを塗り込んでください。



4.7.2.1. ポイント

- ・ スタップ・ジーエス塗布の際には、他部材（土台水切り、屋根材、サッシ等）を汚さないために事前に養生シートなどで養生を行ってください。
- ・ 接着剤が他部材に付着したまま放置すると、硬化後に除去できなくなります。
- ・ 入隅やサッシ廻りで、下地面でシーリング処理した部分は、シーリング材の色が見えないようにスタップ・ジーエスで塗りつぶしてください。
- ・ スタップ・ジーエスのだんご（点付け）施工はしないでください。接着剤の硬化が遅くなり、剥離の原因となることがあります。
- ・ スタップ・ジーエスをかき取る際は下地が透けないようにしてください。
- ・ 寒冷地域での寒冷期（昼間でも気温が5℃以下となる場合）の施工は行わないでください。

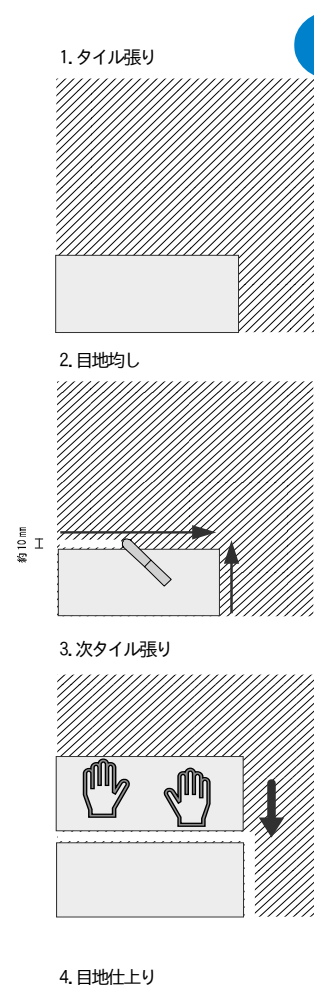
4 タイル張り工事施工手順

4.7.3. 工事（タイル張り）

4.7.3.1. 空目地（目地幅 5 mm）の場合

1. 1枚目のタイルを張付けてください。
タイルは水湿しをしないで、そのまま接着剤塗り付け面に揉み込むようにして押さえつけ、さらに振動工具でピブラートを掛けてください。
2. 2枚目のタイルの張り付け前に、1枚目タイルの二辺または四方をシーリングヘラ（10 mm幅）で均してください。
3. 横位置は目地幅位置に合わせ、縦位置は均し位置上部に張付け、たたきながら、規定の位置までズラしてください。

以降、2.3.工程を繰り返します。



4.7.3.2. 空目地（目地幅 3 mm）の場合

- ・ スタップ・ジーエスを下地にクシ目を立てて塗り付けた後、直ちにタイルを張り付けてください。
- ・ タイルは水湿しをしないで、そのまま接着剤塗り付け面に揉み込むようにして押さえつけ、さらに振動工具でピブラートを掛けてください。



4.7.3.3. 目地詰め（目地幅 5 mm）の場合

- ・ スタップ・ジーエスを下地にクシ目を立てて塗り付けた後、直ちにタイルを張り付けてください。
- ・ タイルは水湿しをしないで、そのまま接着剤塗り付け面に揉み込むようにして押さえつけ、さらに振動工具でピブラートを掛けてください。

4.7.4. ポイント

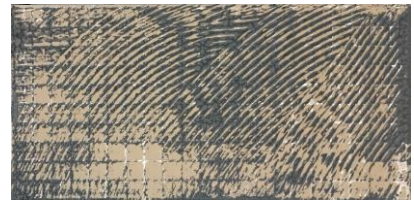
- ・ タイル裏面が汚れていないこと、濡れていないことを確認してください。
- ・ ジョイントテープの周辺では段差が出ないようにしっかりと叩き押さえを行ってください。
- ・ 接着性の確認張り付け作業時、2㎡中、1～2個のタイルまたは1ユニットのタイルを剥し、スタップ・ジーエスの付着状態を確認してください。
- ・ スタップ・ジーエス付着面積の目安は、タイル裏面の60%以上です。
- ・ スタップ・ジーエスの付着が不十分な箇所が発生した場合は、施工をやり直してください。
- ・ タイル切断の際には、乾式切断としてください。

良好な状態（付着率80%）



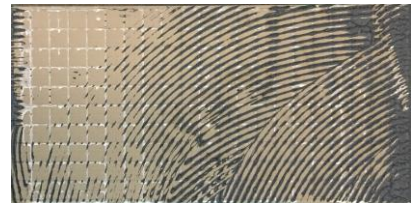
不良な状態（付着率60%未満）

→ 接着剤の量を増やし、均一圧締



不良な状態（付着率40%未満）

→ 接着剤の量を増やし、均一圧締



4.7.5. 目地直し

- ・ 目地直しは、タイル・張付け後必要に応じて直ちに行ってください。
- ・ 気温など環境条件によってスタップ・ジーエスの硬化速度が変化しますので、特に夏期は早めに目地直しまで終了するようにしてください。
- ・ 目地直し時にタイルを大きく動かして目地部が凹凸になってしまった場合は、スタップ・ジーエスが硬化する前に目地コテなどで押さえて平滑にしてください。その際、タイルの側面にスタップ・ジーエスが付かないように注意してください。
- ・ スタップ・ジーエスが硬化すると目地幅を調整することができなくなりますので、硬化時間に注意してください。

4 タイル張り工事施工手順

4.8. 目地詰め・洗い

4.8.1. 材料

目地材： ブリックマスター

4.8.2. 工事

- ・ タイル張付け後、少なくとも1日以上が経過し、タイルが動かないことを確認した後、目地詰めを行ってください。
- ・ 目地詰めは、目地ごてを用いた塗目地としてください。
- ・ 目地材の締まりを見計らって目地ごてを用いて所定の深さにこぼ切りし、入念にコテ押えを行ってください。ただし、目地幅5mm以下の場合は、コテ押えを省略してもかまいません。
- ・ 目地詰め後、タイル面の清掃を行ってください。その際、窓周りや他部材との取り合い部などのシーリング処理を行う部分にはみ出した余分なモルタルを除去してください。
- ・ 清掃は水洗いを原則とし、ブラシなどを用いてタイル表面に汚れが残らないように注意して行ってください。
- ・ 目地材による汚れがはなはだしいときは、工業用塩酸30倍希釈液を用いて酸洗いを行ってください。この場合は、事前にサッシ等の金物の養生を行い、酸洗いののちにタイル面や目地部分に塩酸が残らないように、直ちに十分な水洗いをしてください。

4.9. 化粧シーリングおよび付属設備の取付け

タイル張り工事業者の対象外工事となります。

4.9.1. 材料

推奨シーリング材：POSシールLM（現調 セメダイン㈱）

- ・化粧シーリングは、一液形変成シリコン系を使用してください。
- ・POSシールLMは、タイルに合わせた推奨色を使用してください。
- ※ 近似色で同色ではありませんので、使用される環境に応じて選択ください。

4.9.2. 付属部材の取付け

- ・配管支持金物の取付け部位樋支持金物、配線・配管等の貫通穴部・支持金物の取付けは、柱等の下地のある場所でタイルやスタップ・ボードに先穴をあけて、金物を打ち込んでください。
- ・直接樋支持金物を打ち込んだりするとタイルやスタップ・ボードが割れるので注意してください。
- ・樋支持金物を打ち込んだスタップ・ボード周囲は、シーリング材を充填して、雨仕舞いを確実に行ってください。
- ・電気、電話線をタイルやスタップ・ボードに貫通させる場合も同様にシーリング工事を行ってください。
- ・配管工事は、支持材を使用し、タイルやスタップ・ボードに直接密着させて施工しないでください。密着させると雨水や融雪水が、ほこりとともにタイルやスタップ・ボード表面を流れ落ち、汚れの原因になりますので注意してください。
- ・支持材は、胴縁など下地のあるところに取付けてください。スタップ・ボードだけで支持しないようにしてください。
- ・入隅部、他部材との取合い、サッシ廻り等には必要に応じてシーリング処理を行ってください。

4 タイル張り工事施工手順

4.10. 検査

施工によるタイルの割れ、欠け、汚れなどの欠点の有無について検査してください。

- ・ タイル表面に接着剤が付着した場合は、スクレーパー、カッターナイフ等を使用しタイルを傷付けないように接着剤表面を削り取り、残りを汚れ除去用発泡樹脂製品、砂消しゴム等で削り取ってください。
- ・ 施工による不陸や段差の程度および出入隅の通りについて検査してください。
- ・ 目地は引き通しよく、目違いがなく、目地幅や目地深さが均一であるか、また著しい目地切れがないか検査してください。
- ・ 割付図・立面図・イメージパースなどがあれば照合し、外観検査を行い引き渡します

4.11. 補修方法

4.11.1. タイル張替え補修

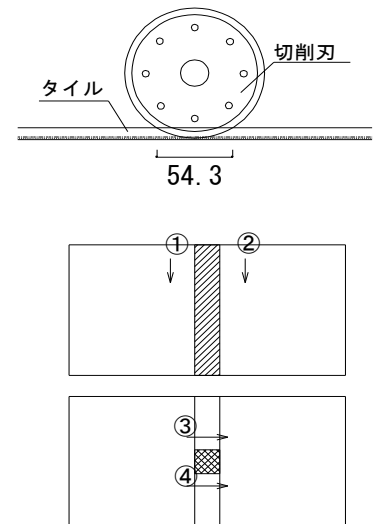
部分的に割れたタイルは、張替え補修してください。なお、張付け硬化した接着剤は大変強固に接着していますから、無理にタイルを剥がすと、下地サイディングが破損してしまいます。手順を遵守し、不具合が拡大しないよう十分に注意してください。また、タイルの割れ・欠けが軽微な場合は、事項のエポキシパテ補修方法としてください。

4.11.1.1. 材料

接着剤： スタップ・ジーエス
 タイル： 適用タイル

4.11.1.2. 工事

- ・ タイル剥がし
- ・ 該当タイルの周囲の目地接着剤階に切れ込みを入れてください。
- ・ タイル中央部に、タイル厚さ1～2mmが残る程度まで、グラインダーで切削し切れ込みを入れてください。
 下地サイディングまで切れ込みを入れないよう注意してください。
 φ100 切削刃で1回に入れられる切れ込み長さは、約55mmです。
- ・ 上記の方法で、右図の位置に切れ込みを入れてください。
- ・ 玄翁もしくはハンマーなどで、タイルの連結を破壊してください。
- ・ スクレーパーで中央部からタイルを剥がしてください。
- ・ 中央部から両側に向けて、スクレーパー皮すきでタイルを剥がしてください。
- ・ 下地に残った接着剤は、スクレーパー皮すきで除去してください。
- ・ タイル張りP.39を参照してください。



4.11.2. エポキシパテ補修

4.11.2.1. 材料

補修材：ハイクイック、プライマー (MP1000)、タッチアップ剤 (溶剤系)

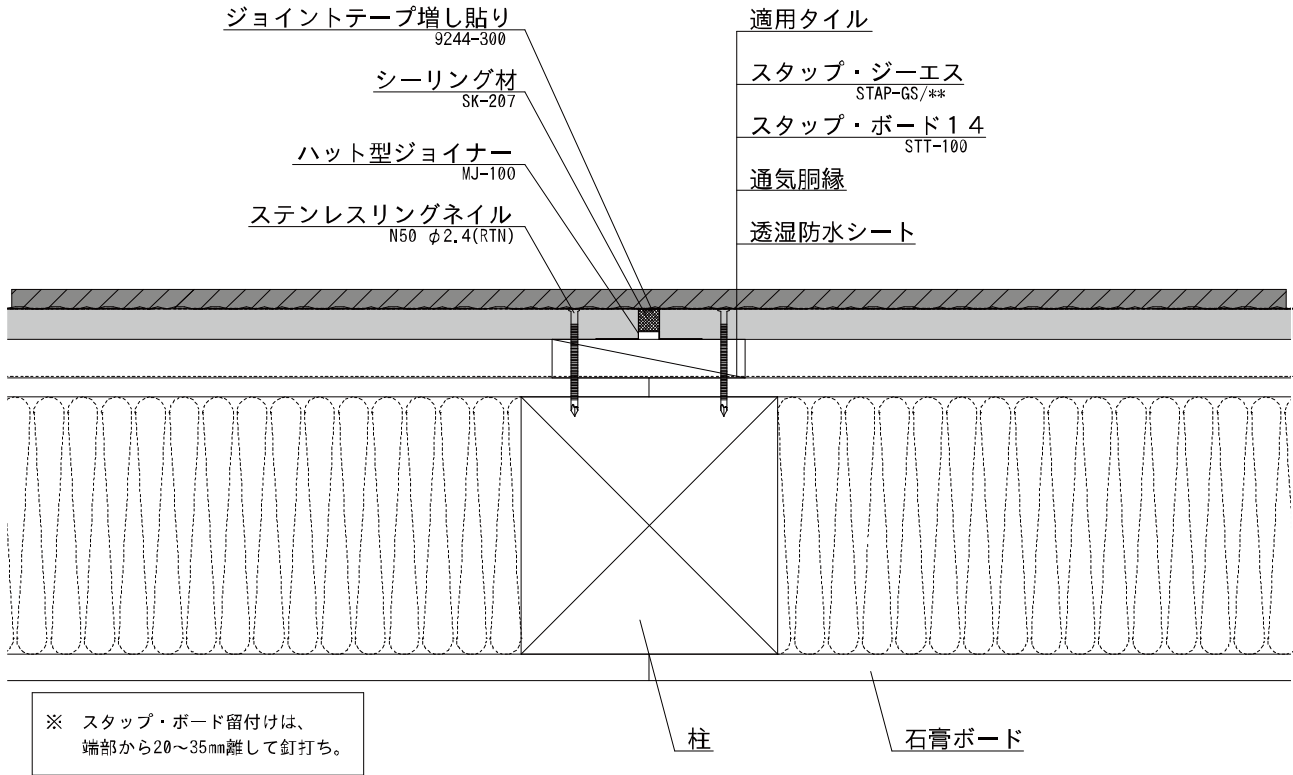
4.11.2.2. 工事

- ・ 表面についたホコリや汚れを除去してください。
- ・ 補修部位にマスキングテープを貼付してください。
- ・ 補修部位にプライマーを刷毛塗りし、乾燥させてください。
- ・ ハイクイックをA剤：B剤 = 1：1で混合させてください。
 均一色まで混合したら、直ちに補修部位に塗布してください。
- ・ 硬化後、マスキングテープを剥がしてください。
- ・ ヤスリなどではみ出したハイクイックを削り落としてください。
- ・ タッチアップ剤 (溶剤系) を塗布し、仕上げてください。

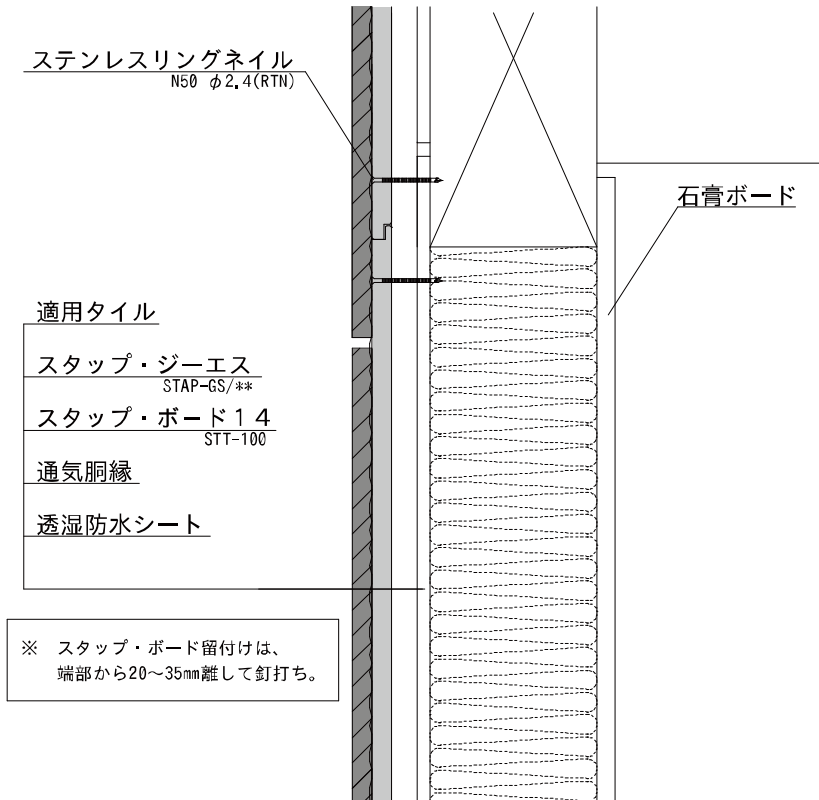
5. 納まり図

5 納まり図

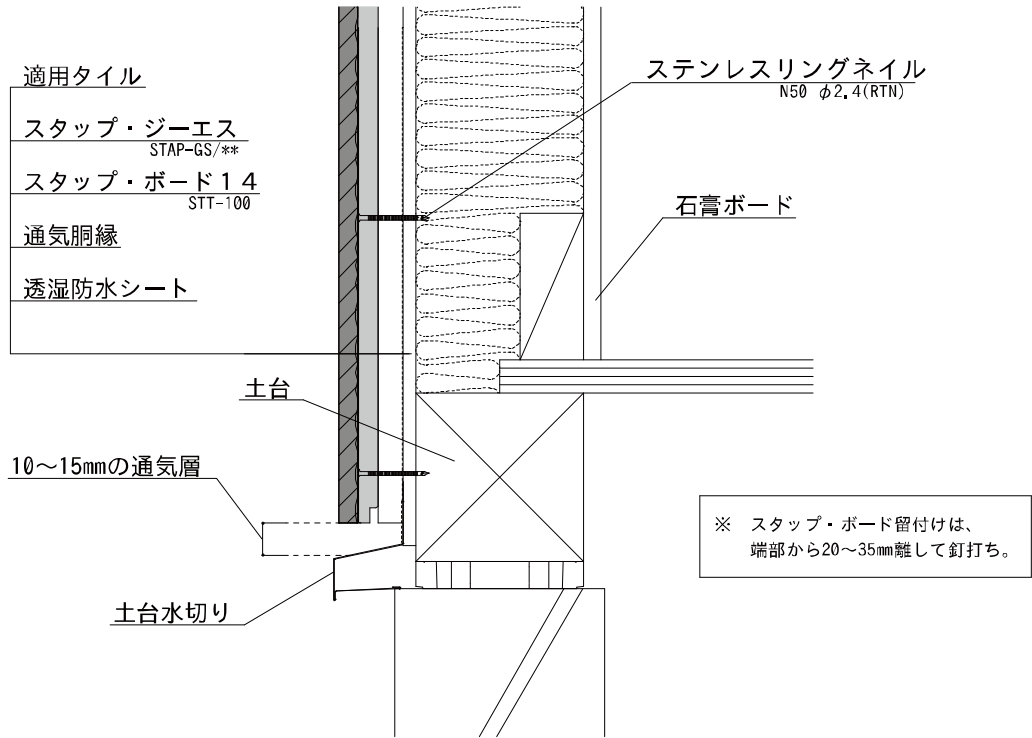
5.1. 一般部（水平断面）



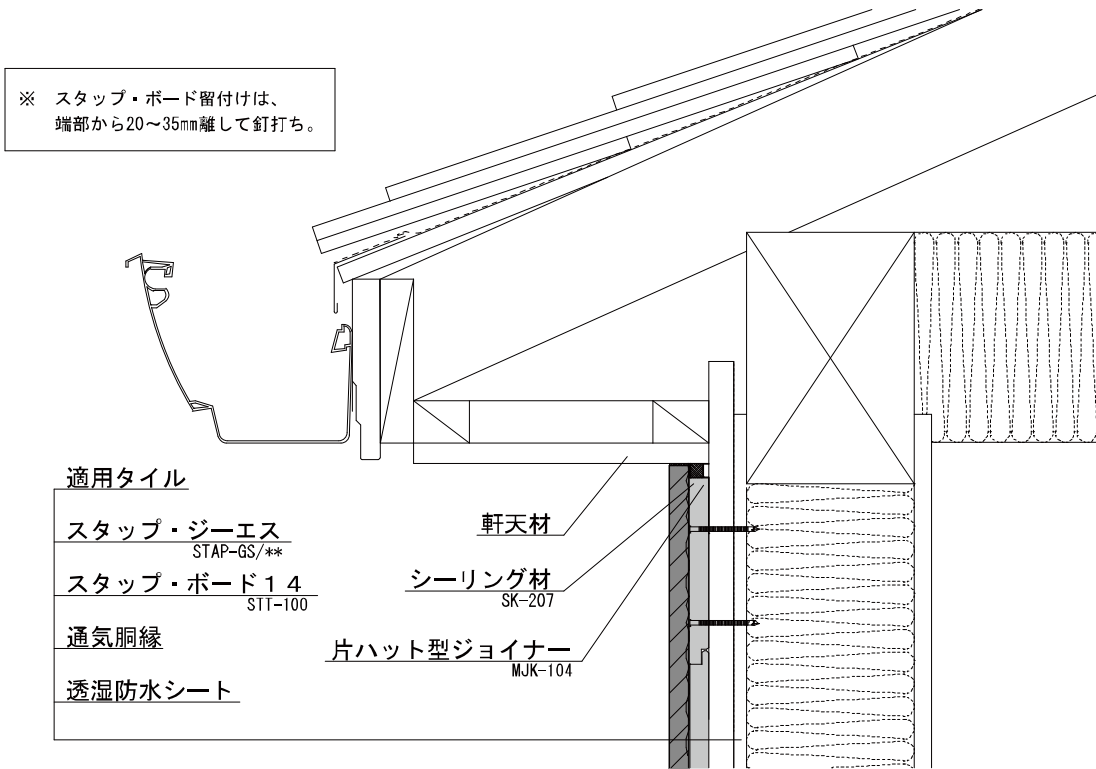
5.2. 一般部（垂直断面）



5.3. 基礎土台部

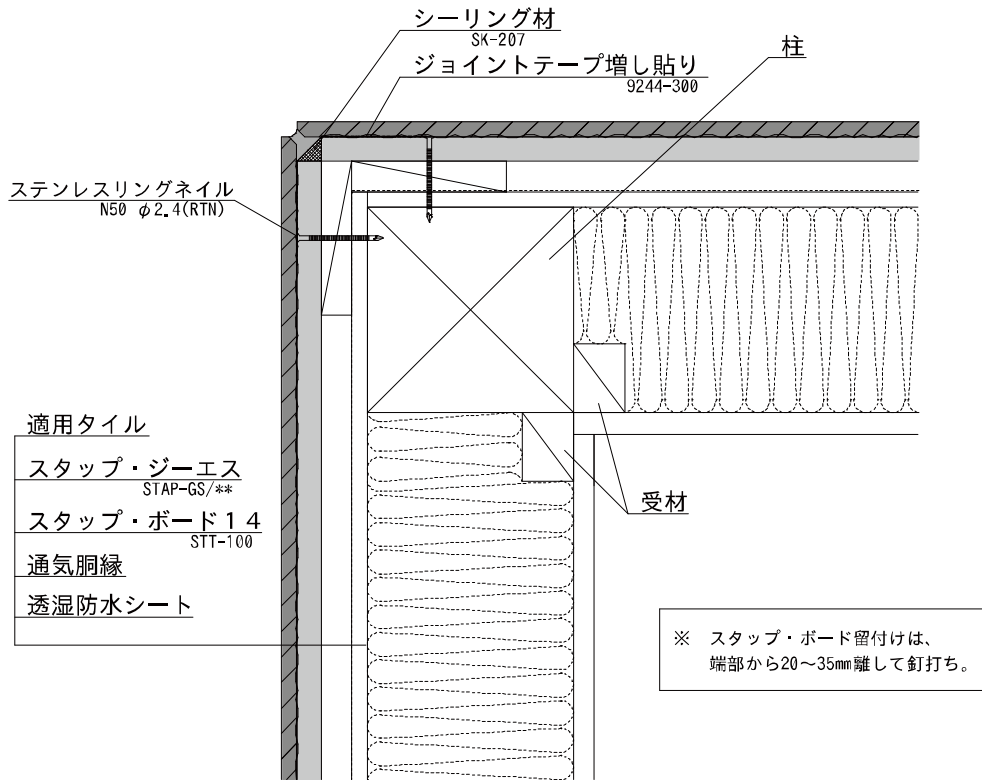


5.4. 軒天部

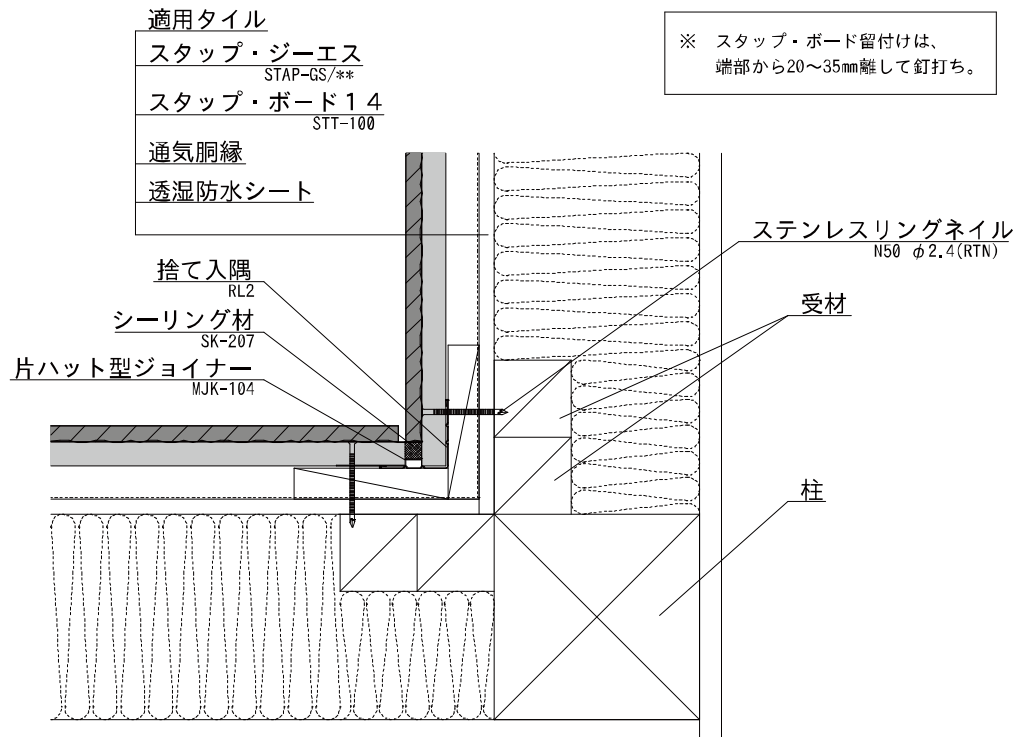


5 納まり図

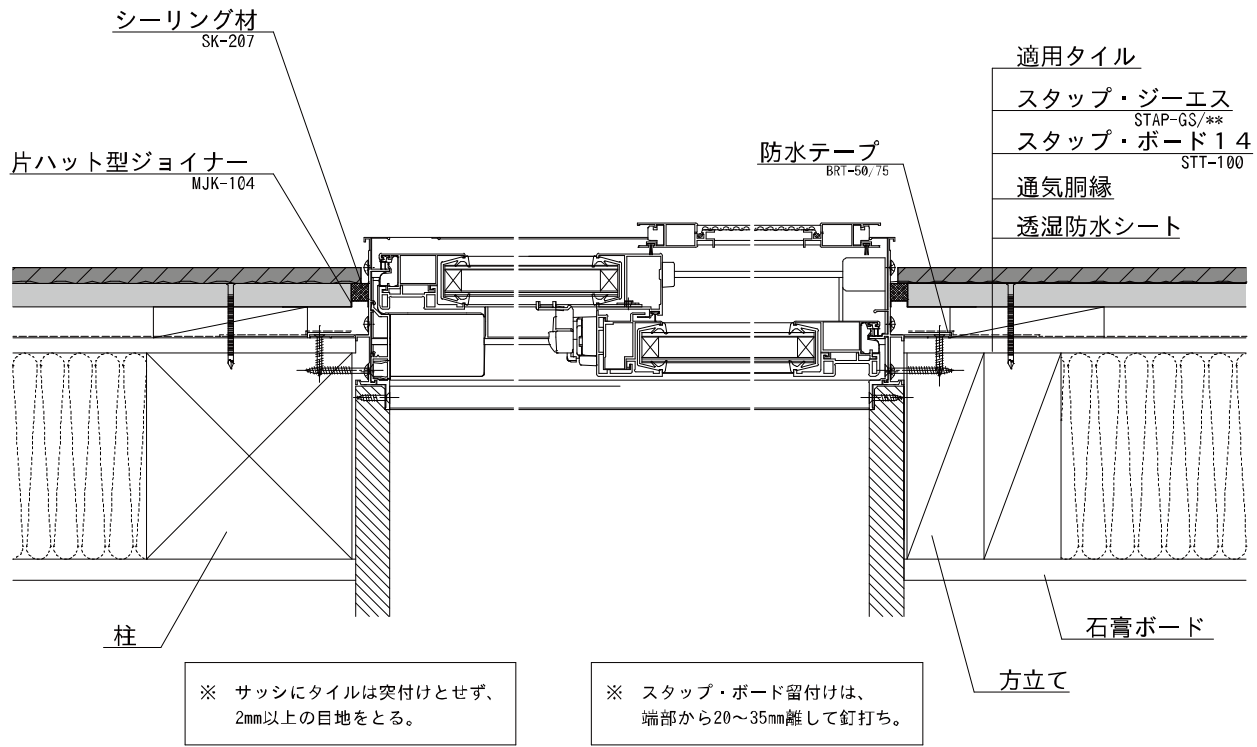
5.5. 出隅部



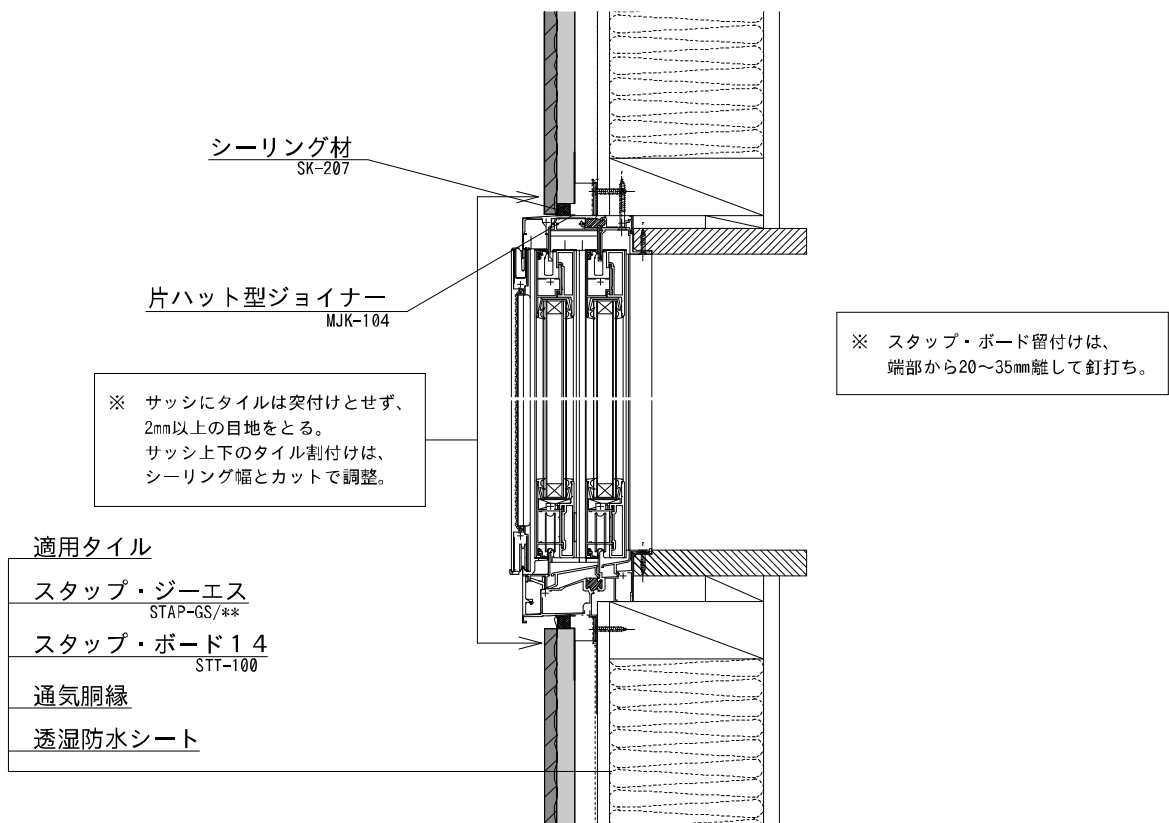
5.6. 入隅部



5.7. 開口部 (水平断面)



5.8. 開口部 (垂直断面)



6. チェックシート

6 チェックシート

6.1. タイル下地工事自主チェックシート

タイル下地張り工事自主チェックシート兼工事完了報告書

お客様名		契約 No.	
建設地		工事期間	
仕様		タイル	
元請会社名		元請担当者	
施工店名		作業者名	

チェック記号 ○：出来ている ×：出来ていない /：該当無し

項目	内容	No.	チェック	備考	不具合	対応 チェック
工事前	材料確認	各材料は指定の品番か	1			/
		各材料が必要数量納入されているか	2			/
	足場確認	適切な足場が設置されているか	3			/
	施設確認	水道・電気設備は整っているか	4			/
タイル下地の施工	下地精度	建ち	3 mm以内かつ高さの 1/1000 以内	5		/
		通り	一面：3 mm以内	6		/
		下地の継目段差	2 mm以内	7		/
		躯体、基礎部の継目段差	2 mm以内	8		/
		軒天レベル	2 mm以内	9		/
		開口部の水平レベル	3 mm以内	10		/
	下地状況	サッシや見切り等の部材は正しく取り付けられているか	11			/
		ボルト等の出はないか、また下地の不陸はないか	12			/
		基準墨は出ているか	13			/
		配管設備等は設置してあるか	14			/
		柱・間柱の間隔は 500mm 以下か	15			/
		入隅部など必要な箇所に添え柱、補助材などが適切に配してあるか	16			/
	防水紙の張	指定の防水紙を使用しているか	17			/
		機張りで下から張られているか	18			/
		重なり代は指定以上確保されているか（上下：100mm、出隅部：両側に柱幅ずつ）【写真】	19			/
		（面材がない場合）左右：一般部 1 スパン、入隅部両側に 1 スパンずつ	20			/
		（面材がある場合）左右：一般部 150mm、入隅部 両側に柱幅ずつ	21			/
		損傷箇所はないか。あれば補修すること。	22			/
	胴縁の施工	サッシ廻り等は、防水テープで密着されているか 【写真】	23			/
		胴縁サイズは厚 15×幅 45mm 以上の材料が 500mm ピッチ以下で施工されているか	24			/
		必要な箇所に幅広（90mm 以上）の胴縁が使用されているか	25			/
		通気構造のための胴縁施工がされているか（土台・軒天・開口廻り等）	26			/
		土台水切り・バルコニー水切りは水平に取り付けてあるか	27			/
		指定ハット型ジョイナー、捨て入隅等が適切に配されているか 【写真】	28			/
	スタップ・ボードの留付け	専用の下地材が張られているか	29			/
		濡れたスタップ・ボードを施工していないか	30			/
スタップ・ボードは所定の留め付け方法で施工されているか（釘の本数、位置、長さ、太さ）		31			/	
釘の端打ち間隔は 25mm～35mm か 【写真】		32			/	
基礎水切りとの隙間は、一定で 10～15 mm確保されているか		33			/	
オーバーハング部水切りとの隙間は、一定で 10～15 mm確保されているか		34			/	
下屋部屋根材との隙間は、一定で 15～20 mm確保されているか		35			/	
縦目地の通りはそろっているか		36			/	
シーリング箇所の目地幅は 10 mmになっているか		37			/	
上下継目および左右目地の段差は目立たなくなっているか		38			/	
シーリング 施工	割れ、欠けがないか	39			/	
	釘の打ち込みすぎや、打ち込み不足はないか	40			/	
	切断小口でプライマーが塗布されない箇所にはシーラーを塗布しているか	41			/	
	スタップ・ボード切断面のほこりは除去されているか	42			/	
	専用（推奨）シーリングが使用されているか、またプライマー処理はされているか	43			/	
	必要な箇所にシーリングがされているか	44			/	
清掃	土台水切りと下地材最下端との取り合いにシーリングしていないか	45			/	
		46			/	
工事後	納まり	全体的な仕上げに不具合はないか	47			/
	現場確認	残材処理・現場清掃はされているか	48			/
	完了確認	工事完了報告書は作成・提出されているか	49			/
	備考		50			/

上記チェック項目の不備内容については、 月 日 手直し完了しました。

<p>元請記入欄</p> <p>■ 上記工事が完了したことを認めます 年 月 日</p> <p>会社名 _____</p> <p>現場管理者 _____ 印</p>	<p>工事会社記入欄</p> <p>■ 上記工事が完了しました。 年 月 日</p> <p>会社名 _____</p> <p>主任技術者 _____ 印</p>	<p>施工者記入欄</p> <p>■ 上記工事が完了しました。 年 月 日</p> <p>会社名 _____</p> <p>施工責任者 _____ 印</p>
--	--	---

6.2. タイル工事自主チェックシート

タイル張り工事自主チェックシート兼工事完了報告書

お客様名		契約 No.	
建設地		工事期間	
仕様		タイル	
元請会社名		元請担当者	
施工店名		作業者名	

チェック記号 ○：出来ている ×：出来ていない /：該当無し

項目	内容	No.	チェック	備考	不具合	対応 チェック	
工事前	材料確認	1				/	
		2				/	
	足場確認	3				/	
	施設確認	4				/	
	気温	5				/	
タイル施工	下地の確認	6				/	
		7				/	
		8				/	
	ジョイントテープ張り	9					/
		10					/
	タイル張り	11					/
		12					/
		13					/
		14					/
		15					/
		16					/
		17					/
		18					/
		19					/
		20					/
		21					/
		22					/
		23					/
		24					/
		25					/
	目地詰め	26					/
		27					/
		28					/
	洗い	29					/
		30					/
	化審 シーリング	31					/
		32					/
		33					/
		34					/
	タイルと各部 位の取合い	35					/
		36					/
	仕上り	37					/
		38					/
	工事後	39					/
		40					/
		41					/

上記チェック項目の不備内容については、 月 日 手直し完了しました。

元請記入欄
■ 上記工事が完了したことを認めます 年 月 日
会社名 _____
現場管理者 _____ 印

工事会社記入欄
■ 上記工事が完了しました。 年 月 日
会社名 _____
主任技術者 _____ 印

施工者記入欄
■ 上記工事が完了しました。 年 月 日
会社名 _____
施工責任者 _____ 印

7. 注意事項

7 注意事項

7.1. 安全衛生心得

7.1.1. 安全衛生心得

- ・ 安全第一に徹すること
- ・ 作業服は上下共に正しく着用すること
- ・ 作業場の整理整頓を行うこと
- ・ 作業者相互の安全確認を十分行うこと
- ・ 健康状態を十分確認すること
- ・ 電動工具、空気圧工具の安全性チェックを行うこと



7.1.2. 安全衛生規則

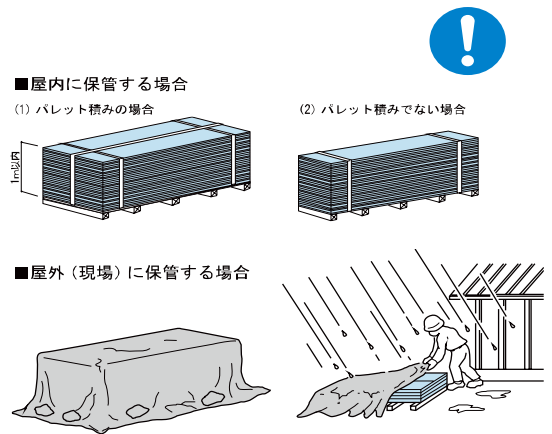
- ・ 安全ヘルメット（墜落保護用）を着用すること。（労働安全衛生規則第539条）
- ・ 滑りやすい履物を使用しないこと。（建設業労働災害防止規程第25条）
- ・ 墜落の恐れがあるときは、安全帯を着用すること。（労働安全衛生規則第520条）
- ・ 足場の安全性を確認すること。
- ・ 切断作業の際、長時間多量の粉塵を吸収すると健康を損なう恐れがあります。集塵装置付カッター並びに局所排気装置、防塵マスクの着用、うがい手洗いの励行、切断片の安全な処分等に留意してください。

7.2. 部材保管・納入時の注意

7.2.1. スタッブ・ボードの取扱いと現場保管時の注意

7.2.1.1. 現場保管

- ・ スタッブ・ボードは濡らさないようにし、施工現場では必ずシートをかけて保管してください。雨、雪などに濡れて吸水したスタッブ・ボードは、施工後に乾燥して縮み、反り、端割れなどを起こす場合がありますので、絶対に濡らさないください。なお、濡れたスタッブ・ボードにシーリング材を施すと、シーリング切れを起こすことがあります。
- ・ 保管は原則、屋内の堅い水平な場所に保管してください。やむを得ず屋外に置く場合は、風雨を避けるため、ポリエチレンなどの防水シートで覆い、シートが飛ばないように養生してください。
- ・ パレット積み保管は2段までとし、積み重ねの高さは1m以下にしてください。
- ・ 地面に直接置かないで、パネルや角材を用いて飼木（かいぎ）をしてください。



7.2.1.2. 取扱い

- ・ 車輛などでの運搬時は平積みをし、急ブレーキ時の損傷を防ぐため、ロープを掛け、角には必ず当て板をしてください。
- ・ クレーンでつり上げる時には、ロープによる損傷を防ぐため当て板を行い、損傷の無いようにしてください。
- ・ 持ち運びは、垂直に小端立てにして運んでください。また、汚れた手で触らないように注意してください。
- ・ ものに当てたり、落としたりして、角などを損傷しないよう十分注意してください。

不陸防止に必要な飼木本数

サイディングの長さ	3m	5本以上
-----------	----	------

7.2.2. 接着剤およびタイルの保管時の注意

7.2.2.1. 保管

- ・ 現場に保管する場合は、なるべく施工場所に近い安全な所を選んでください。
- ・ 風雨を避けるため、また接着剤の劣化や変質を避けるため、屋内で保管してください。
やむを得ず屋外に保管する場合は、防水性のあるシートで覆い、シートが飛ばないように養生してください。
- ・ 接着剤は、日陰になる場所に保管してください。
- ・ 水濡れや破損を避けるため、直接地面に置かないでください。

7.2.2.2. 取扱い

- ・ 製品梱包に衝撃を与えないようにしてください。
- ・ 汚れた手で触らないように注意してください。水濡れしたものは使用しないでください。
- ・ 持ち運びは水平としてください。
- ・ 逆さ持ちや、側面を上方にしないでください。
- ・ カッターナイフ等で開封する際は、製品を傷つけないよう注意してください。

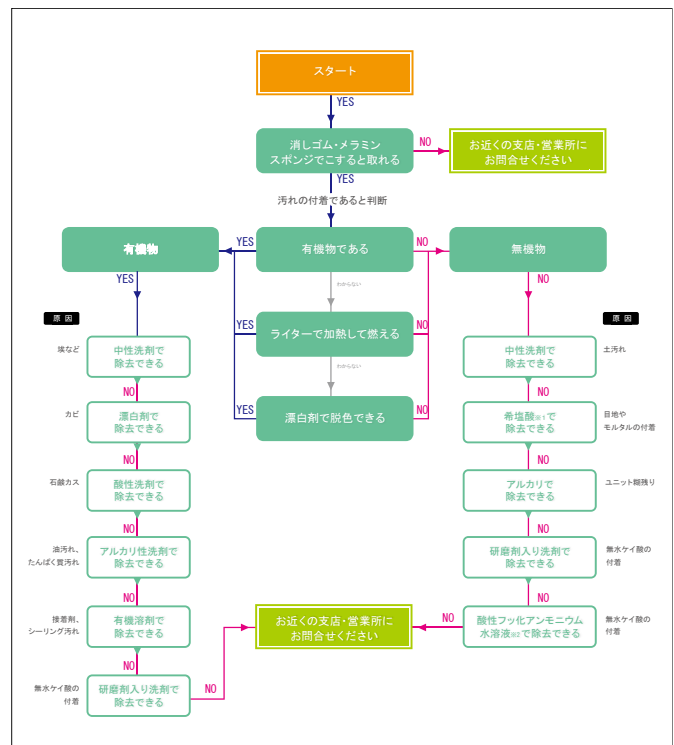
7.3. 維持管理のポイント

7.3.1. 日常の維持管理とお手入れ方法

ご使用中の環境や、他部材からのもらい汚れなどで、タイル表面の汚れが目立つ場合があります。日常のお手入れ方法で除去できない場合は、汚れ除去ローに從って、適切な処置を行ってください。



- ・ 空目地の場合は、目地部接着剤に変色や劣化の影響が出ないよう、十分に注意してください。
- ・ 洗剤や薬剤を使用する場合は、それぞれの取扱説明書に從って正しく使用してください。また、必要に応じて保護具（眼鏡、マスク、ゴム手袋など）を着用してください。
- ・ 洗浄は、目立たないところで効果を確認し、実施してください。
- ・ 希塩酸やシュウ酸、強酸性洗剤と塩素系漂白剤やカビ取り剤などを混ぜると、塩素ガスが発生する場合がありますので、同時に使用しないで下さい。
- ・ 強酸洗剤や希塩酸を使用する場合は、金属製品が錆びたり目地部が侵される恐れがあるので、洗剤がかからないよう注意してください。
- ・ 漂白剤や有機溶剤を使用する場合は、十分換気してください。
- ・ 洗浄後は、十分水洗いを行い、洗浄剤が残らないようにしてください。



7 注意事項

7.3.2. 点検時期

- ・ 建築後3年後を初回の目安とし、それ以後も1年ごと程度で点検を行ってください。
- ・ 長期優良住宅制度の点検プログラムを参考に、日常点検を実施してください。
- ・ 地震・台風などの後には、その都度点検を行ってください。

8. 付録

8 付録

8.1. 適用タイルリスト (2025.4)

本マニュアルへの適用を示します。

割付により、ジョイントテープ貼付とタイル割付が重要となります。特に注意して計画してください。

No.	製品名	形状 名称	寸法 (mm)	厚さ※1 (mm)	推奨目地幅 (mm)		目地		重量※3 (kg/m ²)	備考
					縦	横	スダレ	ウマ※2		
1	カリラ	300角	295 x 295	8.5	5	5	○	○	17.7	
2		600 x 300	595 x 295	9.0	5	5	○	○	19.9	
3	クラレット	300角	295 x 295	8.5	5	5	○	○	17.7	
4		600 x 300	595 x 295	9.0	5	5	○	○	19.9	
5	アーレイ	300角	295 x 295	8.5	5	5	○	○	17.7	
6		600 x 300	595 x 295	9.0	5	5	○	○	19.9	
7	イオニア	600 x 300	595 x 295	9.0	5	5	○	○	19.9	
8	セロII	600 x 300	595 x 295	9.0	5	5	○	○	19.9	
9	ナバラ	300角	295 x 295	8.5	5	5	○	○	17.7	
10		600 x 300	595 x 295	9.0	5	5	○	○	19.9	
11	ラッツオ	600 x 300	595 x 295	9.0	5	5	○	○	19.9	
12	ウッドマイスター	600 x 140	595 x 140	9.0	3	3	○	○	18.5	
13	アーバングランド	450 x 220	447 x 219.5	7.0	3	3	○	○	14.5	

※1 同製品であっても厚さの異なる製品の張合わせはできません。

※2 縦目地とタイル面の段差が出る場合があります。

※3 タイル単体の規格重量からの目安となります。